

令和6年度 事業報告書

2024 Business report



INDEX

I 令和6年度を振り返って	2
II 法人概要	3
III 事業管理	15
IV 各施設事業執行状況	23
1. 特別養護老人ホーム美原荘 軽費老人ホーム（ケアハウス）和風荘 特別養護老人ホーム美原荘「すごうの郷」	23
2. 特別養護老人ホーム春日丘荘 特別養護老人ホーム春日丘荘「彩の家」	25
3. 特別養護老人ホーム四條畷荘 養護老人ホーム四條畷荘	27
4. 特別養護老人ホーム光明荘	29
5. 特別養護老人ホーム高槻荘	31
6. 特別養護老人ホーム白鳥荘	33
7. 東大阪養護老人ホーム	35
8. 豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなか 特別養護老人ホーム永寿園とよなか	37
9. 軽費老人ホーム（ケアハウス）豊寿荘 特別養護老人ホーム豊寿荘	39
10. 軽費老人ホーム万寿荘	41
11. 軽費老人ホーム河南荘	43
12. OSJ工房よりそいの丘	45
13. 障がい者支援施設みずほおおそら 特別養護老人ホームみずほおおそら	47
14. 介護老人保健施設かがやき	49
15. OSJ人材育成センター	51
16. 事務局	53
V 研修実施内容	55

令和6年度を振り返って

令和6年度の介護保険法および障害者総合支援法の改正においては、利用者の自立支援や医療的ケアおよび重度化防止に向けた対応などのサービス内容の充実、生産性の向上による職員の働きやすい職場環境の整備等が示され、また、各市における子育て支援施策については子どもの支援だけではなく、その家族を支えるための取り組みについても具体的な形となって推進されました。そのような中、物価高騰や職員確保の難しさなどによる経営環境の変化、大規模自然災害発生時における対応と事前の備えの必要性が高まり、社会福祉法人として地域から求められる役割について、新たな取り組みも見据えたうえでどう果たしていくべきなのか、それを実現するための経営状態はどうあるべきなのかを検証しながら取り組みを推進してきました。

利用者のサービス内容の向上と働きやすい職場環境づくりについては、ICT機器の導入を積極的に進め利用者の身体状況の把握から個別支援の充実につなげるとともに、インカムによるタイムリーな情報共有や事務負担軽減のためのAI音声議事録作成システムを導入しました。

職員の採用については、リクルーターを通じて大学等との連携をより一層深めるとともに、地域への貢献や専門性の向上を明確にした広報活動を進めました。また、外国人雇用については、特定技能外国人の受け入れを積極的に進めるとともに、インドネシアのポリテクニック国立看護大学からインターンシップ生8名の受け入れを行い半年間のプログラムを無事終えることができました。これにより、大学とのより一層の協力関係の構築と、高齢者福祉サービス中心であった外国人雇用について、障害福祉サービスへの展開に繋がる明確な糸口を見いだすことができました。

そして、昨年度の能登半島地震への職員派遣を踏まえながら、事業継続計画(BCP)の見直しに取り組む中で、春日丘荘、四條畷荘、白鳥荘の3施設において大阪府の地域介護・福祉空間整備等施設交付金を活用し非常用発電機設置工事の完了、災害時の職員安否確認と安全確保に繋がる防災特化型アプリの導入、OSJ工房よりそのの丘の建物を備蓄倉庫に改修するなど、非常災害時におけるサービス継続のための環境整備を行いました。

新たな取り組みとしては、児童発達支援、放課後等デイサービス事業の立ち上げ、子育て世帯訪問支援事業や児童育成支援拠点事業の受託、医療的ケアを提供する生活介護事業所として、「箕面市立障害者自立支援センターいろはもみじ萱野」の指定管理者の選定を受けるなど、法人として今後進めていかなければならない方向性を踏まえてチャレンジを続けてきました。

これらの取り組みの推進については、当法人の理念を体現するため「こうありたい」「こうなりたい」といった夢と理想、そして意欲と熱意を持ち様々な課題に向き合いながらともに歩みを進めて下さった職員一人ひとりと、当法人に関わるすべての方々のお力添えの賜物であると思っております。今後もそれを原動力にしながら日々地域からの声を謙虚に受け止め、つながるすべての人の幸せの実現に少しでも寄与できる活動に関われることに喜びと感謝を忘れず、また、法人としての使命に近づけるための夢を語りあえる組織づくりに邁進していきたいと思っておりますので、引き続き、皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

理事長 行松 英明

法人概要

1. 沿革

- 昭和46年 3月11日 社会福祉法人大阪府社会福祉事業団設立発起人会開催
大阪府民生部長畑中豊作氏を設立代表者に互選、設立準備に入る
設立認可申請書を厚生大臣に提出
役員定数を理事「9名」監事「2名」とする
- 昭和46年 3月25日 厚生省社第204号をもって認可される
- 昭和46年 3月30日 設立登記完了
第1回理事会開催
初代理事長に大阪府副知事湯川宏氏が就任
- 昭和46年 4月 1日 特別養護老人ホーム泉南特別養護老人ホーム(入所定員100名)、養護老人ホーム東大阪養護老人ホーム(入所定員150名)、軽費老人ホーム和風荘(入所定員70名)、同豊寿荘(入所定員100名)、婦人保護施設たまも寮(入所定員55名)、同あかね寮(入所定員50名)、精神薄弱者授産施設大東園(通所定員50名)の7施設の受託経営
軽費老人ホーム使用料収納事務の受託
- 昭和46年 5月17日 初代理事長湯川宏氏退任
- 昭和46年 5月18日 二代理事長畑中豊作氏就任
- 昭和46年 5月20日 軽費老人ホーム万寿荘(入所定員50名)の受託経営
- 昭和47年 5月26日 第二種社会福祉事業「医療社会福祉事業振興対策資金の貸付事業」の受託運営
- 昭和48年 4月 1日 補助金方式を委託料方式に改める
精神薄弱者授産施設大東園の通所定員「50名」を「60名」に増員
- 昭和48年 8月 1日 附带的公益事業「老人福祉指導センター事業」の受託運営
- 昭和49年 7月24日 老人福祉指導センター事業の中に「老人機能回復訓練指導員養成事業」の追加受託
- 昭和50年 4月 1日 軽費老人ホーム河南荘(入所定員100名)の受託経営
- 昭和50年10月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「在宅老人機能回復訓練事業」の実施
- 昭和51年 3月31日 二代理事長畑中豊作氏退任
- 昭和51年 4月 1日 三代理事長大阪府民生部長榊居孝氏就任
- 昭和51年 7月31日 三代理事長榊居孝氏退任
- 昭和51年 8月 1日 四代理事長浅海浩氏就任
- 昭和52年 7月 1日 特別養護老人ホーム美原荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和52年10月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和53年 7月 1日 精神薄弱者授産施設白鷺園(通所定員50名)の受託経営
- 昭和53年 8月 1日 特別養護老人ホームにおける「ねたきり老人短期入所事業」の実施
- 昭和53年11月18日 特別養護老人ホーム四条畷荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和54年 2月 1日 第二種社会福祉事業「老人総合センター」の受託経営
- 昭和54年 3月31日 附带的公益事業「老人福祉指導センター事業」を老人総合センターに移管し廃止
- 昭和54年 6月19日 四代理事長浅海浩氏退任
- 昭和54年 6月20日 五代理事長板東義雄氏就任
- 昭和55年 3月 1日 特別養護老人ホーム光明荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和56年 4月 1日 役員定数、理事「9名」を「11名」とする
附带的公益事業「社会福祉会館」の受託経営
精神薄弱者授産施設白鷺園の通所定員「50名」を「60名」に増員
- 昭和56年12月31日 婦人保護施設あかね寮(入所定員50名)の廃止

- 昭和57年 2月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘(入所定員100名)の受託経営
- 昭和57年 6月 1日 五代理事長板東義雄氏退任
六代理事長福田順一氏就任
- 昭和60年 4月 1日 特別養護老人ホーム白島荘(入所定員90名)の受託経営
- 昭和62年 6月15日 六代理事長福田順一氏退任
- 昭和62年 6月16日 七代理事長山中治氏就任
- 昭和63年 2月 1日 事業の経営を「大阪府の委託を受けて」を「大阪府等の委託を受けて」に定款変更
- 昭和63年 3月 1日 高槻市から第二種社会福祉事業高槻市老人デイサービスセンターの受託経営
- 平成 2年 3月31日 「老人総合センター」の受託経営廃止
- 平成 2年10月 1日 特別養護老人ホーム光明荘において「家庭奉仕員派遣事業」の実施
- 平成 3年 5月24日 七代理事長山中治氏退任
- 平成 3年 5月25日 八代理事長竹内壮彦氏就任
- 平成 3年11月 1日 婦人保護施設たまも寮において「婦人保護施設退所者自立支援事業」の実施
- 平成 3年12月 1日 高槻市老人デイサービスセンターにおいて「高槻市ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 4年 4月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「虚弱老人短期入所事業」の実施
- 平成 4年 6月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「老人入浴サービス事業」の実施
- 平成 4年 7月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において「茨木市ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 4年 7月15日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「在宅サービス供給ステーション事業」及び「在宅介護支援センター運営事業」の実施
- 平成 5年 4月15日 高槻市郡家老人デイサービスセンター「B型からA型」に移行に伴う「訪問事業」「配食サービス事業」の実施
- 平成 6年 1月 1日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「高槻市身体障害者デイサービス事業」の実施
- 平成 6年10月 1日 特別養護老人ホーム光明荘において「光明荘老人デイサービスセンター」、「和泉市在宅サービス供給ステーション事業」及び「和泉市在宅介護支援センター事業」の受託経営(身体障害者デイサービスも含む)
- 平成 7年10月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「勤労意欲助長事業」の実施
- 平成 8年 3月14日 特別養護老人ホーム高槻荘において「高槻市身体障害者短期入所事業」の実施
- 平成 8年 3月31日 八代理事長竹内壮彦氏退任
- 平成 8年 4月 1日 九代理事長永井貞三郎氏就任
- 平成 8年 5月27日 役員定数、理事「11名」を「13名」とする
- 平成 8年10月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 9年 3月31日 婦人保護施設たまも寮受託経営廃止
- 平成 9年 4月 1日 婦人保護施設「女性自立支援センター」(入所定員150名)の受託経営
茨木市より第二種社会福祉事業「茨木市立老人福祉センター沢池荘」「茨木市立沢池老人デイサービスセンター」の受託経営
- 平成 9年 4月21日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町在宅介護支援センター事業」の受託経営
- 平成 9年 7月 1日 泉南市より第二種社会福祉事業「泉南市立老人デイサービスセンター」の受託経営
- 平成10年 3月31日 九代理事長永井貞三郎氏退任
- 平成10年 4月 1日 十代理事長 家常恵氏就任
軽費老人ホーム和風荘をケアハウスに建て替えケアハウス和風荘として受託経営
茨木市立沢池老人デイサービスセンターにおける「ホリデイサービス事業並びに時間延長事業」の実施

- 平成10年 4月 1日 特別養護老人ホーム美原荘・春日丘荘における「24時間対応(巡回型)ホームヘルパー派遣事業」の実施
特別養護老人ホーム美原荘において「ナイトケア事業及び父子家庭介護人派遣事業」の実施
特別養護老人ホーム光明荘において「和泉市身体障害者短期入所事業」の実施
特別養護老人ホーム四條畷荘において「福祉自動車送迎サービス事業」の実施
- 平成10年 6月15日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「訪問看護ステーション事業」の実施
- 平成10年10月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「泉南市在宅介護支援センター事業」の実施
- 平成11年 5月 7日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町給食サービス事業」の実施
- 平成11年 9月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「社会生活適応訓練事業」の実施
- 平成11年10月 1日 11の居宅介護支援事業所において「要介護訪問調査事業」の実施
- 平成12年 1月 6日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町老人デイサービス事業」の実施
- 平成12年 3月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において「老人デイサービスセンター事業」「配食サービス事業」の実施
- 平成12年 3月31日 知的障害者授産施設大東園・白鷺園の受託経営廃止
十代理事長 家常恵氏退任
- 平成12年 4月 1日 介護老人福祉施設、短期入所生活介護、訪問介護、訪問入浴、通所介護、訪問看護事業における32介護保険事業所の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム春日丘荘において「春日丘荘在宅介護支援センター事業」の実施
- 平成12年 4月13日 十一代理事長 興津進康氏就任
- 平成12年 5月 1日 特別養護老人ホーム白島荘において「配食サービス事業」の実施
- 平成12年 6月22日 特別養護老人ホーム美原荘において「高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業」の実施
- 平成13年 3月15日 特別養護老人ホーム四條畷荘において「配食サービス事業」の実施
- 平成13年10月 1日 女性自立支援センターにおいて「堺市知的障害者地域生活援助事業」の実施
- 平成14年 3月 1日 特別養護老人ホーム白島荘において痴呆対応型共同生活介護の指定を受け事業実施
- 平成14年 3月29日 事業団出資額40,000,000円を加え、基本金を50,000,000円とする
- 平成14年 3月31日 大阪府立施設の条例改正により6特養、1軽費の受託経営廃止
泉南特別養護老人ホームの施設廃止、及び、これに伴い、介護老人福祉施設、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援(2ヶ所)の事業の廃止
特別養護老人ホーム高槻荘における訪問看護事業の廃止
- 平成14年 4月 1日 役員定数、理事「13名」を「9名」とする
特別養護老人ホーム美原荘、特別養護老人ホーム春日丘荘、特別養護老人ホーム四條畷荘、特別養護老人ホーム光明荘、特別養護老人ホーム高槻荘、特別養護老人ホーム白島荘、軽費老人ホーム(ケアハウス)和風荘の設置経営の為、土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する
高槻市立郡家老人デイサービスセンターにおいて「精神障害者居宅介護事業」の実施
- 平成14年 8月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「精神障害者居宅介護事業」の実施
- 平成15年 4月 1日 短期入所、居宅介護、デイサービス、地域生活援助における15支援費事業所の指定を受け事業実施
高槻市郡家老人デイサービスセンターの建物を高槻市から無償譲渡を受け、大阪府より同施設の土地を購入
特別養護老人ホーム春日丘荘において痴呆対応型共同生活介護の指定を受け事業実施
- 平成15年 7月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘において福祉用具貸与事業の指定を受け事業実施
- 平成16年 2月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて訪問介護事業の指定を受け事業実施

- 平成16年 4月 1日 軽費老人ホーム豊寿荘の土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する
茨木市立南茨木老人デイサービスセンターにおいて「老人デイサービスセンター事業」「配食サービス事業」の実施
南茨木居宅介護支援事業所において居宅介護支援事業の指定を受け事業実施
箕面市光明の郷ケアセンターにおいて「老人デイサービスセンター事業」「知的障害者デイサービス事業」の実施
特別養護老人ホーム6施設、養護老人ホーム1施設、軽費老人ホーム3施設の計10施設において社会貢献事業実施
- 平成16年12月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘において訪問介護員養成研修事業の許可を受け事業実施
- 平成17年 3月31日 女性自立支援センターにおいて堺市知的障害者地域生活援助事業の廃止
大阪府医療社会福祉事業振興対策資金借入金利子補助事業の廃止
十一代理事長 興津進康氏退任
- 平成17年 4月 1日 東大阪養護老人ホーム及び軽費老人ホーム万寿荘、軽費老人ホーム河南荘の土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する
十二代理事長 中村幹雄氏就任
- 平成17年 5月 1日 四條畷荘訪問介護事業所「ヘルパーステーションほほえみ」において「身体障害者」「知的障害者」「障害児」訪問介護事業実施
豊寿荘訪問介護事業所「ゆたか」において「精神障害者居宅介護等事業」の実施
- 平成17年 7月 1日 軽費老人ホーム豊寿荘をケアハウスに建て替えケアハウス豊寿荘として事業実施
- 平成17年10月 1日 軽費老人ホーム(ケアハウス) 豊寿荘において特定施設入居者生活介護事業実施
- 平成18年 3月 1日 軽費老人ホーム(ケアハウス) 和風荘において特定施設入居者生活介護事業実施
- 平成18年 3月31日 大阪府立女性自立支援センター事業運営終了
大阪府社会福祉会館の会館運営終了
- 平成18年 4月 1日 特別養護老人ホーム「豊寿荘」(入所定員50名) 事業実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「短期入所生活介護事業」の実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「通所介護事業」の実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「診療所ゆたか」の開設
特別養護老人ホーム四條畷荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム光明荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム高槻荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
白島荘グループホーム「華の家」において「短期利用共同生活介護事業」の実施
美原荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
四條畷荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
光明荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
白島荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
短期入所生活介護、訪問介護、訪問入浴、通所介護、特定施設入居者生活介護、福祉用具貸与事業における24介護予防事業所の指定を受け事業実施
- 平成18年 6月 1日 東大阪養護老人ホーム訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
豊寿荘デイサービスセンター「ゆたか」において「介護予防通所介護事業」の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「介護予防短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成18年 9月30日 光明荘デイサービスセンターにおいて実施していた「介護予防通所介護事業」の廃止
美原荘、四條畷荘、高槻荘、豊寿荘において実施していた障害福祉サービス事業「外出介護事業」の廃止

- 平成18年10月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」「外部サービス利用型介護予防特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
美原荘、春日丘荘、四條畷荘、光明荘、高槻荘、豊寿荘の訪問介護事業所にて障害福祉サービス「重度訪問介護」の指定を受け事業実施
光明荘デイサービスセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
美原荘訪問介護事業所において「地域生活支援事業移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成19年 3月 1日 白島荘グループホーム「華の家」において「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成19年 3月31日 特別養護老人ホーム美原荘における「訪問入浴事業」の廃止
美原荘、光明荘、光明の郷ケアセンターにおける「障害者デイサービス事業」の廃止
- 平成19年 4月 1日 美原荘デイサービスセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「地域活動支援センター事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「入浴サービス事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「日中一時支援事業」の実施
- 平成19年 6月 1日 春日丘荘ヘルパーステーションにおいて「産前・産後ホームヘルパー事業」の実施
- 平成19年11月26日 特別養護老人ホーム四條畷荘竣工
- 平成20年 1月 1日 特別養護老人ホーム四條畷荘において「通所介護事業」の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム四條畷荘において「四條畷荘診療所」の開設
- 平成20年 2月 1日 養護老人ホーム四條畷荘(入所定員50名)事業実施
養護老人ホーム四條畷荘において「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成20年 3月31日 高槻荘における障害福祉サービス「経過的サービス事業」の廃止
- 平成20年 4月 1日 箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「白島荘小規模多機能型居宅介護事業所「ひねもす」」の指定を受け事業実施
- 平成20年 8月 1日 軽費老人ホーム(ケアハウス)豊寿荘において「介護予防特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成21年 3月31日 特別養護老人ホーム白島荘における「配食サービス事業」の廃止
- 平成21年 4月 1日 万寿荘において池田市立敬老会館での「老人福祉センター事業」の指定管理者の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム春日丘荘において「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施
- 平成22年 3月15日 特別養護老人ホーム春日丘荘リニューアルオープン
- 平成22年 3月31日 特別養護老人ホーム美原荘における「配食サービス事業」の廃止
十二代理事長 中村幹雄氏退任
- 平成22年 4月 1日 十三代理事長 高木哲夫氏就任
- 平成22年 5月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において保険診療の開始
高槻荘において「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成22年 6月 1日 春日丘荘グループホームにおいて「介護予防認知症対応型共同生活介護事業」「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所介護事業事業」の指定を受け事業実施
春日丘荘ヘルパーステーションにおいて「茨木市高齢者でいっしょサービス事業」実施
- 平成22年 9月 1日 特別養護老人ホーム美原荘、ケアハウス和風荘リニューアルオープン
特別養護老人ホーム美原荘において保険診療の開設

- 平成23年 3月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において、「地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」、「小規模多機能型居宅介護事業」、「認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成23年 4月 1日 堺市において堺市立北老人福祉センター、東老人福祉センター、堺市立美原総合福祉会館・美原老人福祉センターの指定管理者の指定を受け事業実施
- 平成23年 4月30日 高槻荘における「福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与事業」の廃止
- 平成24年 3月31日 美原荘における「在宅介護支援センター運営事業」の廃止
東大阪養護老人ホームにおける「居宅介護支援事業」の廃止
- 平成24年 4月 1日 美原荘において「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施
- 平成24年 4月 2日 東大阪養護老人ホーム移転先土地の購入
- 平成24年 8月 1日 光明荘デイサービスセンター、在宅サービス棟リニューアルオープン
- 平成24年 9月21日 大阪府よりサービス管理者責任者等研修事業者の指定を受け事業実施
- 平成24年10月 1日 美原荘において「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」の指定を受け事業実施
- 平成25年 1月15日 特別養護老人ホーム永寿園とよなか新築工事の竣工
- 平成25年 2月 8日 特別養護老人ホーム白島荘建て替え工事
- 平成25年 3月 1日 永寿園とよなかにおいて「地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護事業」、「通所介護事業」、「短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成25年 3月27日 基本金の一部10,000,000円を大阪府へ返還し、基本金40,000,000円とする
- 平成25年 3月31日 特別養護老人ホーム光明荘リニューアル工事の竣工
- 平成25年 4月 1日 豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなかの指定管理者の指定を受け事業実施及び「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
春日丘荘において茨木市立老人福祉センター南茨木荘、茨木市立老人福祉センター桑田荘での老人福祉センター事業の指定管理者の指定を受け事業実施
大阪府より介護員養成研修（介護職員初任者研修課程）事業者の指定を受け事業実施
- 平成25年 7月17日 大阪府より相談支援従事者（初任者及び現任者）研修事業者の指定を受け事業実施
- 平成25年10月31日 東大阪養護老人ホーム建替え工事の竣工
- 平成25年12月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成26年 2月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「居宅介護支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成26年 7月31日 特別養護老人ホーム白島荘建替え等工事の竣工
- 平成26年 8月 1日 OSJ工房よりそいの丘において「就労継続支援A型事業」及び「就労継続支援B型事業」の指定を受け事業実施
- 平成26年 8月 5日 法人事務局を大阪市中央区から箕面市に移転
OSJ研修・研究センター設立
- 平成26年10月20日 高槻市において高槻荘地域密着型サービス施設新築等工事の着工
堺市において、地域密着型特別養護老人ホーム（仮称）すごう新築工事の着工
- 平成26年12月 1日 白島荘において「計画相談支援事業」及び「障害児相談支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年 2月13日 万寿荘における「居宅介護支援事業」の廃止
- 平成27年 4月 1日 茨木市において、沢池多世代交流センター、南茨木多世代交流センターの指定管理の指定を受け事業実施
みずほ・おおぞらにおいて、「生活介護事業」、「就労継続支援B型事業」、「短期入所事業」、「日中一時支援事業」、「計画相談支援事業」、「地域移行支援事業」、「地域定着支援事業」、「障害児相談支援事業」の指定を受け事業実施

- 平成27年 7月24日 高槻市において高槻荘地域密着型サービス施設新築等工事の竣工
- 平成27年 8月 1日 高槻荘において、「小規模多機能型居宅介護事業」及び「認知症対応型共同生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年 9月15日 堺市において、地域密着型特別養護老人ホーム（仮称）すこう新築工事の竣工
- 平成27年 9月28日 四條畷荘において「四條畷荘いづくステーション『よろか』」を開始
- 平成27年10月 1日 四條畷荘において「短期入所事業」の指定を受け事業実施
美原荘において、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」、「認知症対応型共同生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年10月 5日 豊中市において、障がい者、高齢者福祉サービス施設（仮称）みずほおおぞら園新築工事の着工
- 平成27年11月 1日 豊寿荘において、新千里東町に「居宅介護支援事業」「訪問介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年12月 1日 豊寿荘において、新千里東町で「あいあい食堂」を開始
- 平成27年12月31日 永寿園とよなかにおいて、「老人デイサービス事業」を廃止
- 平成28年 4月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター、服部介護予防センターの事業を実施するとともに、各介護予防センター内において、「通所介護事業」の指定を受け事業実施
東大阪養護老人ホームにおいて、「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施
OSJ工房よりそいの丘において、「特定相談支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成28年 8月 1日 みずほおおぞらにおいて、「施設入所支援事業」、「就労継続支援A型事業」の指定を受け事業を実施、また、島江町「生活介護事業」、「就労継続支援B型事業」、「計画相談支援事業」、「地域移行支援事業」、「地域定着支援事業」、「障害児相談支援事業」を、また、稲津町から「短期入所事業」、「日中一時支援事業」、を同所に移転
- 平成28年 9月 1日 みずほおおぞらにおいて、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて、「生活介護事業」の指定を受け事業実施
河南荘において「福祉有償運送事業」の実施
- 平成28年12月 1日 永寿園とよなかにおいて「企業主導型保育事業」の実施
- 平成29年 3月31日 十三代理事長 高木哲夫氏退任
- 平成29年 4月 1日 十四代理事長 行松英明氏就任
役員定数、理事「9名」を「6名」とする
豊寿荘において、千里介護予防センター、柴原介護予防センター、庄内介護予防センターの事業実施
豊寿荘において、原田介護予防センター内で「居宅介護支援事業」の指定を受け事業実施
みずほおおぞらにおいて、豊中市から「生活介護事業」を引継ぎ事業実施
- 平成29年 5月 1日 光明荘において、「認知症機能強化型地域包括支援センター」の委託を受け事業実施
- 平成29年10月 1日 OSJ工房よりそいの丘において、「委託相談支援事業」の委託を受け事業実施
- 平成29年11月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター内で「通所型サービスA」の指定を受け事業実施
- 平成30年 3月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター内で「企業主導型保育事業」の実施
- 平成30年 8月 1日 診療所ゆたかにおいて、「訪問リハビリテーション事業」の指定を受け事業実施
- 平成30年 9月 1日 豊寿荘訪問介護事業所「ゆたか」並びに「ひがしまち」において、「移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成30年12月 1日 白島荘において、「移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成31年 1月 1日 春日丘荘において訪問型サービスA（緩和）の指定を受け、事業実施
- 平成31年 3月31日 高槻荘における、「訪問入浴介護」の事業を廃止
- 平成31年 4月 1日 豊寿荘において、高川介護予防センターの事業実施
豊寿荘において、高川介護予防センター内で「通所介護」「通所介護相当」の指定を受け、事業実施
春日丘荘において玉櫛・水尾地域における「地域包括支援センター事業」の委託を受け事業実施

- 平成31年 4月 1日 光明荘において「通所介護相当サービス」の指定を受け、事業実施
光明荘において「訪問介護相当サービス」の指定を受け、事業実施
白島荘において、「居宅介護(障がい)」「重度訪問介護(障がい)」の指定を受け、事業実施
- 令和 元年 5月 1日 白島荘において、箕面市立光明の郷ケアセンターにおける「日中一時支援」「入浴サービス事業」の事業を廃止
光明荘において「訪問看護」の指定を受け、事業実施
- 令和 元年10月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「居宅介護(障がい)」「重度訪問介護(障がい)」「移動支援」の指定を受け、事業実施
- 令和 元年10月18日 特別養護老人ホーム高槻荘の大規模改修工事の着工
- 令和 元年12月 1日 豊寿荘において、庄内介護予防センター内で「居宅介護支援」の指定を受け、事業実施
- 令和 2年 3月 1日 白島荘において箕面市立光明の郷ケアセンターにおける「共生型生活介護」の指定を受け、事業実施
- 令和 2年 4月 1日 かがやきにおいて、「介護老人保健施設」、「通所リハビリテーション」、「居宅介護支援」の指定を受け、事業実施
かがやきにおいて豊中市北西部圏域における「地域包括支援センター事業」の委託を受け事業実施
かがやきにおいて、一般財団法人豊中市医療保健センターとの協働事業として
「とよなか人材育成センター」の事業実施
白島荘において箕面市東部における「地域包括支援センター事業」の委託を受け事業実施
- 令和 2年 7月 1日 豊寿荘において、通所訪問型短期集中サービス事業の委託を受け事業実施
- 令和 3年 4月 1日 かがやきにおいて、とよなか人材育成センターにおける介護福祉士養成施設
「OSJとよなかケアスクール」を開始
高槻荘において「高槻荘ホームヘルパーステーション桃園」「高槻荘訪問看護ステーション桃園」
「高槻荘ケアプランセンター桃園」を開始
- 令和 3年 7月30日 特別養護老人ホーム高槻荘の大規模改修工事の竣工
- 令和 4年 4月 1日 組織改編によりOSJ人材育成センターを設置
OSJ人材育成センターにおいて、OSJ日本語アカデミーとよなかを開校
みずほおおぞらにおいて、豊中市立障害福祉センターひまわりの施設運営管理および柴原障害者相談支援センター事業の委託を受け事業実施
春日丘荘において沢池・西地域における「地域包括支援センター事業(圏域型)」、天王・東奈良地域における「地域包括支援センター事業(エリア型)」の指定を受け事業実施
- 令和 4年11月10日 特定技能制度における登録支援機関として登録
- 令和 4年12月 1日 かがやきにおいて介護老人保健施設かがやきの通所リハビリテーション事業にて
リハビリ特化型サービスの事業実施
- 令和 5年 3月 1日 有料職業紹介事業の許可を受け事業実施
- 令和 5年 8月 1日 かがやきにおいて「訪問リハビリテーション」の指定を受け事業実施
- 令和 6年 3月 31日 OSJ工房よりそいの丘における「就労継続支援A型事業」の事業を廃止
- 令和 6年 4月 1日 OSJとよなかケアスクールが専修学校の認可を受ける
専修学校の認可に伴い、無料職業紹介事業の許可を受け事業実施
軽費老人ホーム万寿荘において「訪問介護」の指定を受け事業実施
OSJ工房よりそいの丘において「生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 令和 6年 7月 1日 高槻荘において「高槻市子育て世帯訪問支援事業」の委託を受け事業実施
OSJ工房よりそいの丘において「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」の指定を受け事業実施
- 令和 6年 8月 1日 OSJ工房よりそいの丘「生活介護事業」において共生型通所介護の指定を受け事業実施
- 令和 6年12月 1日 みずほおおぞらにおいて「豊中市地域生活支援拠点等・ネットワーク運営推進事業」の委託を受け事業実施
- 令和 7年 2月 1日 豊寿荘において「豊中市子育て世帯訪問支援事業」の委託を受け事業実施
- 令和 7年 3月 31日 光明荘における「訪問入浴介護」の事業を廃止

1. 評議員会

回	開催年月日	出席者数	議案項目
1	令和6年6月27日	6名	第1号議案 新規事業の開始に伴う定款の一部変更 報告案件 第1号 令和5年度事業報告 第2号 令和5年度収入支出決算 第3号 社会福祉充実残額
2	令和7年3月5日	7名	第1号議案 新規事業の開始に伴う定款の一部変更
3	令和7年4月9日	7名	第1号議案 基本財産変更に伴う定款の一部変更

2. 理事会

回	開催年月日	出席者数	議案項目
1	令和6年6月12日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 令和5年度事業報告 第2号議案 令和5年度収入支出決算 第3号議案 新規事業の開始に伴う定款の一部変更 第4号議案 経理規程の一部改正 第5号議案 令和6年度収入支出予算の補正 第6号議案 評議員候補者の選任 第7号議案 評議員選任・解任委員会の招集 第8号議案 評議員会の招集 報告案件 第1号 給食委託業者との委託契約の締結 第2号 (仮称) 箕面市立ワークセンター中部の指定管理者の公募への応募とその結果 第3号 社会福祉充実残額 第4号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況
2	令和6年7月3日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 施設長の任免 報告案件 第1号 箕面市立ワークセンター中部の指定管理者に関する協定書の締結
3	令和6年9月24日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 経理規程の一部改正 第2号議案 令和6年度収入支出予算の補正 第3号議案 パートタイマー・アルバイト就業規則の一部改正 第4号議案 マスター職員就業規則の一部改正 報告案件 第1号 令和6年度収入支出決算(7月末) 第2号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況

回	開催年月日	出席者数	議案項目
4	令和6年10月16日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 令和6年度ICT・DX化機器の購入及び設定業務契約の締結 第2号議案 特別養護老人ホーム光明荘個室化改修工事の入札結果及び契約の締結 第3号議案 特別養護老人ホーム春日丘荘個室化改修工事の入札結果及び契約の締結 第4号議案 施設長の任免
5	令和6年12月23日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 複合機賃貸借契約の締結 第2号議案 給食委託業者との契約締結 第3号議案 特別養護老人ホーム春日丘荘、特別養護老人ホーム四條郷荘・養護老人ホーム四條郷荘、特別養護老人ホーム白鳥荘における非常用自家発電設備工事の入札結果及び契約の締結 第4号議案 光明荘における訪問入浴介護事業の廃止 第5号議案 職員の給与に関する規則の一部改正 第6号議案 パートタイマー・アルバイト就業規則の一部改正 第7号議案 マスター職員就業規則の一部改正 報告案件 第1号 令和6年度収入支出決算（10月末） 第2号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況
6	令和7年1月14日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 経理規程の一部改正 第2号議案 令和6年度収入支出予算の補正
7	令和7年1月14日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 新規事業の開始に伴う定款の一部変更 第2号議案 評議員会の決議の省略
8	令和7年3月28日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 令和6年度収入支出予算の補正 第2号議案 令和7年度事業計画 第3号議案 令和7年度収入支出予算 第4号議案 豊中市児童育成支援拠点委託業務の契約締結 第5号議案 特別養護老人ホーム光明荘の給食委託業者との契約締結 第6号議案 令和7年度給食委託業務（クックチル方式）の契約締結 第7号議案 令和7年度給食委託業務（クックサーブ方式）の契約締結 第8号議案 電子署名管理規程の制定 第9号議案 経理規程の一部改正 第10号議案 役員賠償責任補償制度の加入 第11号議案 常勤教員職員就業規則の一部改正 第12号議案 職員の育児休業・介護休業等に関する規則の一部改正 第13号議案 基本財産変更に伴う定款の一部変更 第14号議案 評議員会の決議の省略 第15号議案 施設長の任免 第16号議案 顧問の委嘱 報告案件 第1号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況

3. 監事監査

監事は、法令、定款及び監事監査規程に基づき、理事の職務執行を監査し、計算関係書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書について適正に作成されているか監査を行い、監査報告を作成した。

監事監査日：令和6年5月29日

4. 評議員一覧

委員名	氏名
評議員	森垣 学
評議員	西田 孝司
評議員	川西 利則
評議員	関川 芳孝
評議員	中谷 敬子
評議員	山田 忠男
評議員	関家 鉄一

5. 役員一覧

委員名	氏名
理事	行松 英明
理事	荒田 房生
理事	山上 幸雄
理事	佐藤 真一
理事	齊藤 慎一郎
理事	大江 裕
監事	鶴矢 忠
監事	武本 勝司

6. 施設長・副施設長合同会議

回	開催年月日	議案項目
1	令和6年4月11日	1. 各本部長・新施設長・新副施設長・新事務長 紹介 2. 各施設長・副施設長・事務長 自己紹介及び今年度の重点取り組みについて 3. 施設における虐待事案の発生について 4. 令和5年度職員満足度調査の集計結果について 5. 令和6年度体制について 6. オフィスステーションの導入について

7. 施設長会議

回	開催年月日	議案項目
1	令和6年6月20日	1. 箕面市立ワークセンター中部の提案概要について 2. 不適切ケアの発生について
2	令和6年8月22日	1. 虐待防止・身体拘束廃止にかかる改善の提言 2. 給食委託業者による給食業務委託契約解除の申し入れについて 3. 実習生等の受入対応について
3	令和6年10月24日	1. メンタルヘルスの取り組み推進について 2. 令和7年度当初予算の目標値について 3. 令和6年度OSJぶらざについて
4	令和6年12月19日	1. 人事・給与制度及び今後の事業推進について 2. 非常用自家発電設備工事の入札結果について 3. 給食委託業者との契約締結について 4. 新規事業の準備状況について
5	令和7年2月20日	1. 令和6年度補正予算および令和7年度当初予算の概要について 2. 特定職からエリア職への移行について 3. 職員の確保の取り組み状況について 4. 給食委託業者の選定について 5. 施設における不適切事案について 6. OSJぶらざについて 7. 箕面市立障害者自立支援センターいろはもみじ萱野の準備状況について 8. インドネシアからのインターンシップ生の受入れについて 9. 豊中市北西部圏域児童育成支援拠点事業運営業務委託にかかる選定結果について 10. 実践報告・研究発表について
6	令和7年3月18日	1. メンタルヘルスの取り組み推進について 2. 令和7年度当初予算の目標値について 3. 令和6年度OSJぶらざについて

8. 副施設長会議

回	開催年月日	議事項目
1	令和6年5月2日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 虐待案件について - 新規採用職員の教育体制について - インターンシップの受入について - ニュースレターの発行について
2	令和6年6月6日	- 令和5年度事業報告及び決算概要について - 令和6年度職員満足度調査の実施方法について - 令和6年度内部監査について - 管理職の深夜時間帯勤務の申し出について
3	令和6年7月4日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 人材確保の取り組みについて - WEB年末調整のスケジュールについて - ラダー教育の導入について
4	令和6年8月1日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 実習生の受入れ等について - 養護老人ホームにおける身体拘束廃止の未実施について - 各施設における虐待防止委員会の運営状況について
5	令和6年9月5日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 不適切ケアの発生について - 車両保険料について - 大阪府の最低賃金見直しに係る法人の対応について - WEB年末調整の今後のスケジュールについて - リファラル採用について
6	令和6年10月3日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 各施設の定数管理について - 補正予算及び当初予算作成のスケジュールについて - 人事ヒアリングのスケジュールについて - メンタルヘルス改善に向けた取り組みについて
7	令和6年11月7日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 令和6年度内部監査について（事） - 虐待防止の取り組みについて（事） - マイナンバーカードについて（事）
8	令和6年12月5日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 虐待防止の取組について（事） - 災害防災アプリについて（事） - 令和6年度OSJぶらざについて - 理事長の施設訪問について
9	令和7年1月9日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 介護職員等処遇改善加算について - リクルーターの今後の活動について（事） - 電子契約及び複合機について（事） - 感染症発生状況及び感染症対策について（事）
10	令和7年2月6日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 令和6年度決算事務連絡（事） - 令和7年度業者選定（消耗品）について（事） - 電子契約システム導入について（事） - 令和7年度研修実施について（事） - 介護サービス事業者経営情報データベースシステム - 宿直勤務について
11	令和7年3月6日	- 経営課題解決に向けた取り組み報告について - 令和6年度ストレスチェックの結果について（事） - クロスゼロの進捗状況について（事） （再案内）R6年度決算事務連絡（事） - 事業計画のスケジュールについて（事） - リクルーターの任命について（事） - 修学支援のためのご寄附のお願いについて（事）

事業管理

1. 職員の可能性を高める取り組み

(1) 働きやすい環境づくりに向けた取り組み

1. 法人全体で働きやすい職場環境づくりの取り組みを推進していく方向性を示すため、理事長からのメッセージの発信及び全施設へのラウンドを行い、実際に働く職場環境の視察、各事業所の取り組みなどについての意見交換の機会を設けた。
2. 外部の臨床心理士による全施設への定期訪問を開始し、ストレスチェックの結果にもとづき訪問カウンセリングが必要と判断された職員に対して面談の機会を設けるとともに、LINEを活用したオンライン相談窓口を開設し、対面での相談が困難な職員に向けたメンタルヘルス支援体制を整備した。
3. 現場で職員に直接かかわる役職者及びリーダー職員、人材育成担当者向けのメンタルヘルスに関する研修プログラムの開始に向けた研修を実施した。
4. 職員のスキルアップの観点から、施設内インターンシップの実施や副業制度を活用し、施設職員による訪問介護業務等との兼務を進めた。
5. 白島荘でノーリフトケアに関する機器の導入、ノーリフトケアコーディネーターの資格の取得などを進めるとともに、「高齢者福祉実践研究大会2024 in OSAKA」においてその取り組み事例を発表した。
6. 職員からの紹介による採用を進めるために、SNSを活用したリファラル採用の取り組みを推進した。
7. 就職活動中の学生に事前のヒアリングを行い、各施設で希望に沿った体験を提供するオーダーメイド型の職場体験プログラムにより、多くの採用につなげることができた。

(2) 職員一人ひとりの力を高めるための取り組み

1. 採用後2～3年目の介護職員、主任・総括級職員向けのスキルブックを作成するとともに、一般職向けのスキルブックの効果的な運用、働きやすい職場環境づくりをテーマに主任級に対する研修を実施した。
2. ブロックごとに人材育成担当者会議を開催し、各施設における指導者が抱える課題の共有、採用職員や実習生に対する効果的な指導・助言が行えるよう、指導体制のあり方や育成方針について意見交換を行いながらスキルの向上を図った。
3. 特定技能外国人の資格取得を後押しできるよう、理解しやすい内容にした初任者研修を開催することで9名が修了するとともに、介護福祉士試験受講希望者に対しては、日々学ぶことができる理解しやすいテキストを作成し、受験に向けての対策講座を5回開催した。

- 外国人介護人材のスムーズな受け入れに繋がるよう、外国人向けのスキルブックを作成するとともに、OSJ人材育成センターの教員による受け入れる側の知識・スキルの向上を目的とした外国人介護職員指導・育成研修を開催した。

(3) 職員の働きがい高めるための取り組みの推進

- 「みんなが“つながる”“つなげる”一体感」をテーマにOSJプラザを開催し、今年度は新たに法人理念の行動指針にもとづく日々の取り組み成果の発表の機会を設けるなど、理念の一層の浸透と職員のモチベーション向上につなげる事ができた。
- 全国社会福祉事業団協議会の実践報告・実務研究論文について施設からの応募があり、全国45編の応募の中から白島荘「構造化・その先にある一人一人を見つめた活動や参加を目指して」が優良賞、豊寿荘「施設でのフットケアの実践報告」が佳作の評価を受けることができた。
- 法人の取り組みを職員と共有するため、毎月「はあとLETTER」を発信するとともに、グループウェアシステムを活用し法人内の出来事などについてタイムリーに共有することができた。また、法人の広報誌「なみはや」についても全面的にリニューアルし、定期発行に向け事務局と各施設の広報担当者が連携を図り、1月から発刊することができた。
- コロナ禍により一時参加を見送っていた「箕面まつり」について、5年ぶりに参加し、当法人のPRと職員同士の交流を図った。

(4) 外国介護人材の雇用促進のための取り組みの推進

- 令和5年度から取り組んできたインドネシアのポリテクニク国立看護大学からのインターンシップ生の受け入れについて、8名を受け入れるとともに他法人の2名の受け入れについての支援を行った。6か月間のプログラム修了の報告会では、多くの他法人にも参加してもらい、インターンシップの有用性と当法人のこれまでの取り組みをPRすることができた。
- 特定技能外国人の受け入れについて積極的かつ計画的に受け入れを進めるとともに、より安定した人材を確保していくため、現在の送り出しルート以外からの受け入れも可能となるよう、新たにベトナムからの送り出し機関との関係を構築することができた。
- 特定技能外国人が入国後からよりスムーズに業務を理解できるようになる事を目的に、現地教育機関に当法人の人材育成担当職員を派遣し、入国前の介護実技研修を実施した。
- 職業紹介事業及び登録支援機関の取り組みについては、丁寧な支援が評価されたことにより、すでに受け入れている法人からのリピート利用希望や口コミによる新規受け入れを進める事ができた。また、沖縄県社会福祉事業団からの紹介依頼に対しても、職員が2週間滞在し、入国時の研修、生活オリエンテーションなどを行うことでスムーズな受け入れにつなげる事ができた。
- OSJとよなかケアスクールが専修学校の認可を受けることができ、日本語学校卒業生12名が入学することができた。

2. 法人の可能性を高める取り組み

(1) 新規事業への取り組み

1. 箕面市の「箕面市立障害者自立支援センターいろはもみじ萱野」については、医療的ケアの受け入れ等を提案し指定管理事業者の選定を受ける事ができた。事業開始に向けて、担当課、各関係機関との協議を重ねながら連携を図るとともに、建物が竣工するまでの間の受け入れが可能となるよう、OSJ研修・研究センター内で令和7年4月からの事業開始に向けての準備を進めた。
2. OSJ工房よりそいの丘において、大阪府障害者福祉事業団からの人事交流の協力、一部建物の改修及び外構工事を行い、児童発達支援および放課後等デイサービス事業を開始する事ができた。
3. みずほおおぞらにおいて、地域生活支援拠点としての機能と役割を明確にするためのコーディネーター配置の委託事業を開始するとともに、地域の健全な児童育成に寄与することを目的とした、豊中市北西部児童育成支援拠点事業を受託することができた。
4. 高槻荘、豊寿荘の訪問介護事業所において、家事・子育て等に対して不安や負担を抱えた子育て家庭、ヤングケアラー等がいる家庭へ訪問し、家事や子育て等を支援することにより、虐待リスク等の高まりを未然に防ぐ子育て世帯訪問支援事業を受託した。
5. 万寿荘において在宅の要介護者への支援と、軽費老人ホームにおける継続的な施設生活の支援を目的として、訪問介護事業を開始した。
6. 堺市立老人福祉センターの指定管理期間満了に伴い、入浴機能を廃止したうえで介護予防に資する取り組みを中心とした公募に応募し、引き続き受託することができた。



(2) サービスの質の向上と効率性の高い業務体制の構築

1. 令和6年度より設置したコンプライアンス統括本部長を中心に、虐待・不適切ケアが発生した施設への改善に向けた継続的な関わりと、内部監査におけるチェック項目の見直し、虐待防止のための取り組みの確認と職員への理解度を把握するためのヒアリング等を実施した。
2. 通所介護事業所において、企業とのタイアップにより、受託した袋詰めなどの軽作業をご利用者に担ってもらう取り組みや、AI歩行分析アプリ「トルト」の導入を進め、機能訓練サービスの充実に取り組んだ。

3. 介護DX化を推進するためのICT機器導入に関するプロポーザルを通じて、目的や導入プロセス、効果的な運用方法等を評価したうえで見守り支援機器等を導入し、利用者一人ひとりの生活リズムや健康状態の把握、個々に応じた支援を提供することでQOL（生活の質）の向上に繋げることができた。また、インカムの導入と通信環境の整備を進めることで職員の負担軽減、情報共有と連携の効率化に繋げることができた。
4. 年末調整及び身上変更申請や給与明細発行の手続きをWEB化することで事務の効率化と職員の利便性の向上を図った。
5. AIによる会議録自動作成システムを導入することで、各種会議や職員面談にかかる記録時間の削減に繋がり、また、記録に注力する必要がなくなったことで、具体的で充実した会議を開催することができるなどの効果を実感することができた。



（3）整備計画の実行と保全計画の見直し

1. 万寿荘の大規模改修工事の実施に向け、基本構想の完成及び令和7年7月の設計完了を目指して基本設計及び実施設計に着手することができた。
2. 令和元年度に策定した保全計画について、これまでの工事实績と建築物価の高騰、新たに所有した建物の新規計画の作成を踏まえ見直した。
3. 春日丘荘、光明荘にて大阪府介護施設等の整備に関する事業補助金を活用し、感染症対策及びプライバシー保護に資する個室化改修工事を行った。



(4) 多様化するリスクに対応できる体制の構築

1. 大規模災害発生時における施設での継続したサービス提供と地域の福祉避難所の運営を目的に、地域介護・福祉空間整備等施設交付金を活用し、春日丘荘、四條畷荘、白島荘の3施設に非常用自家発電設備工事を実施するとともに、法人全体の備蓄量を増やすためOSJ工房よりその丘の既存建物の一部を改修し備蓄庫として活用できるようにした。
2. 非常用災害時における連絡体制の確認のための総合防災訓練を実施するとともに、その中で課題になっていた職員の安否確認及び安全確保が円滑に行えるよう、防災に特化したアプリを導入した。



(5) その他

1. 給食委託業者からの契約の解除の申し出や費用の見直しの要望を受け、委託施設の範囲を見直し、新たな業者選定を行うとともに、今後の食事提供方法の在り方についての検討を開始した。

3. 内部管理体制の運用状況

1. 内部監査の実施

実施時期：(1) 令和6年7月17日～10月25日

(2) 令和7年2月7日～3月11日

実施対象：(1) 16施設

(2) 15施設

実施回数：(1) 21回

(2) 15回

2. 業務の適正を確保するための体制

(社会福祉法第45条の13第4項第5号)として、「内部管理体制の基本方針」

(平成29年5月29日理事会決議)に基づき、内部管理体制を運用する。

3. 会計監査人監査の実施

実施日：令和6年4月3日 令和6年4月19日 令和6年5月10日

令和6年9月10日 令和6年10月15日 令和6年10月25日

令和6年11月5日 令和7年2月19日 令和7年3月5日

4. 第二期中長期経営計画の進捗について

第二期中長期経営計画を着実に進捗させるため、今年度は4つのプロジェクトチーム（PT）を立ち上げ、計画に位置付けられた取り組みのうち、重点的に取り組むべきテーマに対して施設職員をはじめとして多くの職員が参画し、活動を進めました。

PT名	主な取り組み内容及び成果	新たな課題
サービスの充実・ケアの質向上PT	・医療的ケアの質向上を図り、誤嚥性肺炎と尿路感染予防のケア事例集を作成した。 ・認知症の方への支援力向上を目的に、認知症研修受講者を増やすためのステップアップルールを作成した。	今年度は、課題の把握と課題可決に向けたスキームの構築に留まったため、次年度は実践と評価を通じたPDCAを回し、検証とブラッシュアップに取り組む必要がある。
広報PT	・OSJ公式TikTokerの活動において、職員が自発的にアイデアを出しやすく、得意分野を活かせる環境の整備や、評価・フィードバックの機会、明確な報酬制度の導入など、モチベーション向上に繋がる仕組みづくりを提案した ・法人ブランディングの一環として、「はあとにゃん」のLINEスタンプ化やゆるキャラグランプリへのエントリーを提案。あわせて、福利厚生の周知・魅力発信に関するインナーブランディング施策も提案した。	各施設の広報担当者と連携を強化し、SNSへの投稿内容やタイミング、話題づくり、業務との両立の工夫などについて定期的に情報を共有することで、より効果的な広報活動に繋げる。あわせて、広報専門部署の設置も検討が必要である。
働きやすい職場環境づくりPT	・全職員を対象に働き方や福利厚生等について、アンケートを実施し、不妊治療休暇やリフレッシュ休暇の制度提案、男性育休促進の体制整備、くるみんプラス取得に向けた取り組みを進めた。あわせて、健康管理や長時間労働の課題を分析し、資格取得支援や法人内インターン制度の提案を行った。	制度の見直しや新たな仕組みの構築をさらに進め、職員の満足度向上に向けて、全拠点で標準的な取り組みを推進していく必要がある。
生産性向上PT	・ICT機器の活用に向けて、使いこなせていない機器の課題や改善点について共有を図り、成果事例は動画でまとめ、動画を通じて法人内で共有した。また、PDCAに基づいた生産性向上委員会の運営標準化を進めるため、委員会資料の統一と職員の理解度が可視化できるよう、アンケートフォームの作成を行った。	更なるICTリテラシーと生産性向上のためには、現場で取り組みを進めるリーダー職員の育成をするとともに、職員が選定から評価まで主体的に関わる体制づくりが必要である。

5. 地域における公益的な取り組みの推進

美原荘	要援護者の孤立の軽減と社会との繋がり促進を目的に、LINE公式アカウントを登録してもらい、SNSを通じた双方向のコミュニケーションの実現と平時から操作に慣れていただくことで、いざという時に活用できるように取り組んだ。
春日丘荘	高齢者の買い物支援と子ども食堂を開催するとともに、子ども達の居場所づくりとして、地域にお住いの元教師の方や学生ボランティアにも協力していただき、子どもたち及びその家族が安心して過ごしてもらえる体制を構築した。
四條驛荘	子どもの居場所づくりとして、施設を一部開放し、昼食提供の他、近隣大学生ボランティアにも協力していただき、学習支援に資する活動に取り組んだ。
光明荘	こどもたちが自分らしく自由に過ごせ学習支援を行う居場所として、「ヒミツキチふせや」を毎週1回開催した。
高槻荘	制度の狭間で潜在化する“食”の課題解決を図り、独自の配食サービスの展開に向けて、行政・市社協、近隣小学校へのニーズ調査を行い、次年度の計画につなげることができた。
白鳥荘	ヤングケアラーに向けた配食支援を通じて、白鳥荘グループや他機関と連携を強化して関わることで、ご家族の社会復帰への第一歩を踏み出す支援につなげることができた。
東大阪養護	ヤングケアラーの支援体制構築のため、当地域住民及び地域のケアマネージャーに向け、ヤングケアラーについての知識や理解を深めるための研修を実施した。
永寿園とよなか	地域ぐるみの子育て支援をより一層深化させるため、保育園での園庭解放の定期実施や、地域交流室での子育てサロン「ももちゃん」の定期開催などに取り組んだ。
豊寿荘	子どもの居場所と高齢者の生きがいづくりを目的に、子どもランチを開催し、センターを利用されている多くの高齢者に運営に参加していただいた。
万寿荘	大阪大学の学生や地域住民の方々にも協力していただき、さつきちゃん塾を開催し学習支援に取り組んだ。その取り組みの中で、課題のある子ども達、ご家庭の支援に繋げることができた。
河南荘	訪問型サービスD事業（移動支援）に加え、地域の福祉有償運送では定期利用以外の緊急的なニーズに柔軟に対応するなど、移動支援の拡充に取り組んだ。
OSJ工房よりその丘	不登校児の支援を目的に、トーキョーコーヒーとの連携を行うとともに敷地をより一層活用し不登校児や近隣の保育所等との連携について検討を進めた。
みずほおおぞら	地域の子ども達が抱える食の課題解決に向け、近隣の小学校の家庭科調理室にて朝の子ども食堂「おはよう食堂」を開催し、食を通じた、子どもの健全な育成に寄与することができた。
かがやき	高低差がある地域の高齢者の外出支援を目的に、外出支援バス「かがやき号」の運行に取り組むとともに、他法人との連携と自施設での増便についての検討も進めた。
OSJ人材育成センター	地域包括支援センターと連携しながら、ケアスクールの学生が主体となった認知症カフェを運営した。

法人理念

Mission — 法人の使命 —

**私たちはつながるすべての人の夢を応援し、
すべての人の幸せを支え続けます**

創立 50 年を迎えた私たち社会福祉法人大阪府社会福祉事業団は、これまで、いま、そして、これからも、つながるすべての職員とすべての地域の方々の夢を応援し、幸せを支え続けることを使命に存在していきます。

OSJ Vision 2031

可能性を高め、地域とともに躍動する法人へ

「可能性」には潜在的な発展性という意味が含まれています。
私たち大阪府社会福祉事業団は、職員の持つ可能性を高め、法人の持つ可能性を高め、そして、地域の持つ可能性を高めていくために、これからもたゆまぬ取り組みを続け、地域共生社会の実現のため地域とともに躍動できる社会福祉法人を目指します。

Value (行動指針)

「よりそう想い つながる心」



笑顔いきいき
365日

各施設事業執行状況

1

美原荘



事業施行概要

『困ったときの美原荘グループ』として、より多くの方の拠り所になる

美原荘グループでは、「困ったときは美原荘」と思ってもらえる存在を目指し、特別養護老人ホームを中心に介護力の偏差値向上に向けた取り組みを実施しました。介護技術の標準化やICTの活用による記録業務の効率化、タスクシフティングの推進により、専門職員が本来業務に専念できる環境を整えました。



ステップアップ事業

ご利用者の尊厳を支える施設運営の確立

入所施設の介護力を可視化し、目標値を定めて底上げに取り組みました。

達成内容

特養各グループでセルフチェックを導入して各職員の意識強化を図りました。ひとつのグループは、アラームを活用したことで、食事時アルコール消毒率が2割から6割へ向上することができました。また、ケアチェックを通して、食事時の周囲への目配りの不足、食後の座位姿勢への気づきの遅れ、入浴時にご自身で洗えるかもしれない部分まで介助してしまうこと、排泄時の動作前の声かけ不足、消臭・換気への配慮不足などの課題を抽出することができ、職員各々がケアを見直し、それらを改善することで、ケアの質向上に繋がりました。

パフォーマンスを最大限に発揮できる組織を築きました。

達成内容

より良いサービス提供のため、日々の打ち合わせを通じて、目標・進捗状況の共有と、管理者の役割分担を整理し、各職種が連携して最大限のパフォーマンスを発揮できる体制づくりに努めました。

専門職員が本来業務に集中できる環境作り

各会議における事前準備の一環として、Googleスプレッドシートを活用し、美原荘グループ各拠点の動向や検討課題を事前に共有しました。これにより、関係者が会議前に内容を把握でき、当日の議論の質と効率が大幅に向上し、会議時間の短縮につながりました。

和風荘では、介護職員がより専門的なケアに集中できるよう、生活支援に特化したスタッフを雇用しました。掃除や洗濯、身の回りの支援などを生活支援スタッフが担うことで、介護職員は一人ひとりに寄り添ったケアの時間をしっかり確保できるようになりました。

ICTの導入による業務効率化の一環として、すごうの郷ではインカム、見守りカメラ等の機器をスマートフォン1台で操作できる仕組みを構築しました。これにより、複数の機器操作を集約し、スタッフの負担軽減・対応スピードの向上につながりました。



エビデンスに基づく認知症ケアの実践

グループホームにおいて課題整理総括表を活用し、本人の課題やニーズを整理したうえでケアプランを作成しました。認知症の症状に応じた支援内容を明確にし、職員間でしっかりと情報を共有することで、根拠ある個別ケアを提供できるように取り組みました。



『困ったときの美原荘グループ』をより多くの方に広める

美原荘グループでは、地域イベントや認知症カフェを活用したPR活動を積極的に行っています。平尾秋祭りでは、地域の子どもたちと楽しく交流できる腕相撲ブースを設置し、来場者との絆を深めました。美原区民まつりでは、事業案内のチラシやノベルティグッズを配布し、施設の活動やサービスを地域の方々に知っていただく機会を設けました。さらに、地域住民に認知症の基礎を知っていただくための機会として認知症カフェを毎月開催しました。30名を超える参加者が集まることもあり、貴重な学びの場となりました。

地域 公益事業

SNS の活用による要援護者の 孤独・孤立の軽減と社会とのつながり促進

29名の方にLINE公式アカウントをご登録いただき、体操動画の定期配信を行ないました。動画への反応や日常のお困りごとの相談、街角フレイル予防事業『美原ZAP（ミハザップ）』の開催案内など、SNSを通じた双方向のコミュニケーションを実現しました。天気や趣味活動・体調の話など日常のコミュニケーションとしてやり取りを行い、平時から操作に慣れていただくことで、いざという時に活用できるように取り組みました。

その人が望む
暮らしの実現へ

各施設事業執行状況

2

春日丘荘



事業施行概要

地域と共に歩む

地域と連携し、防災訓練の実施をはじめ、地域で開催される運動会や祭事などにも積極的に参加しました。また、利用者とともに地域コミュニティの場に出向き、地域住民の声に、耳を傾ける中で、多くの要望や想いを受け止め、それらを地域公益事業へと形として反映させる取り組みを行ってきました。こうした活動を通じて、地域に根ざした関係構築に取り組んでできました。



安心・安全・満足・いつも楽しい春日丘荘

常勤医師配置により、安定した医療的ケアの提供体制が整ったことで、尿路感染、誤嚥性肺炎での入院者を減らすことができました。入院日数、前年度比 32% 減の結果となりました。

達成内容

各拠点で職員茶話会を実施し、仕事や人間関係での悩みを職員同士で共有することで、職員間の関係性構築に寄与することができ、その結果、過去3年間と比較し、離職率を 20% 減少することにつながりました。



重点項目

働きやすい環境づくりに向けた取り組みの推進

職員の腰痛予防に着目し、始業前体操、休憩時等のすきま時間を使った簡単ストレッチを取り入れるなど、健康増進に向けた取り組みを進めました。
スライディングシートやフレックスボードの活用定着を進めました。
また、新たな移乗系介護機器の導入に向けての検討を進めました。

効率性の高い業務体制の構築とD X化の推進

AI多言語音声入力システムの導入に向け試験運用を進めましたが、誤字・誤訳が多く、精度が低いことから、再度の機器選定を行いました。
見守り支援機器「眠りスキャン」を34台導入し、ご利用者の生活リズムに沿って、必要に応じたケアを提供することができるようになり、サービスの質向上と業務省力化につなげることができました。



地域 公益事業

地域における公益な取り組みのより一層の推進

高低差がある土地であり、その為、外出に抵抗を感じている高齢者が多くおられるとの地域ニーズがあることから、高齢者を対象とした、週2回の買い物支援を実施しました。
また、子ども食堂については、学校の長期休暇に入った時期に、週3回開催し、日平均12名の子ども達の利用に繋がりました。

不登校児の居場所作り

子ども達の居場所として、広く認知され、その役割を最大限担うことができるよう、近隣小学校との連携強化を進めました。
また、地域にお住いの元教師の方や学生ボランティアにも協力していただき、子ども達及びその家族が安心して過ごしてもらえる体制を構築しました。
今年度は、月2回の開催で、日平均2名の利用につなげることができました。



たくさんの笑顔に
出会いたい

各施設事業執行状況

3

四條畷荘



事業施行概要

全職員が使命と価値観を理解し、働きがいを高めます。

個職員の行動が法人の理念に基づくものとなるよう施設長が講師となり、全職員対象とした理念勉強会を開催するとともに、部署ごとの会議においても、法人及び四條畷荘の役割を踏まえた方針決定を行いました。

ステップアップ事業

生活支援を通じた地域の高齢者の役割づくり

ボランティアコーディネーターが中心となり、四條畷荘で要請したボランティア希望者が、独居高齢者に対してゴミ出しなどの生活支援を担う取組を進めました。

達成内容

事業推進にあたっては、ケアマネージャーにも広報を行うことで、介護保険を使用するほどではない困りごとの解決につながるとともに、ボランティア希望者も、施設内のみならず地域の中で役割を担ってもらうことができました。



地域 公益事業

多世代支え愛活動の充実に向けて

夏休みには、施設機能を開放し毎月2回、子どもの居場所づくりとして、昼食提供の他、学習の場の提供を行いました。運営に当たっては、多くの子ども達に利用してもらうため、地域の小学校を通じて全校生徒に告知するとともに、近隣大学生ボランティアにも協力していただき、学習支援に資する活動を行いました。



地域の課題解決力を高めるための取り組みの推進

地域自治会との会合や地域行事への参加を積極的に行うことで、地域との関係性を強めることが出来ました。その結果、令和7年度には、地域の消防団員として施設職員が参画する予定とすることができました。

訪問介護の担い手確保を目的に、市内公団住宅周辺にチラシを戸別に配布するなど、雇用促進に向けた取組を進めました。登録ヘルパー1名が常勤へステップアップするとともに、新たに2名の登録ヘルパーを迎えることが出来ました。

地域包括支援センターにおいては、高齢者が認知症などの課題を抱えたとしても住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域ケア会議の開催件数を増やしました。その結果、民生委員との関係性が深まり、相談件数も増加しました。

質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

LIFEデータの確認を定期的に行うことで、事業所の傾向を把握、課題抽出に役立てることはできたものの、個別のアセスメント指標としてデータの利活用をする場面は限定的となっています。次年度に向けて、他のICT機器のスケール値と併せて、ご利用者の個別支援に向けた利活用を促進していく検討を行いました。

入所系施設で導入した見守り系機器を活用することで、ご利用者の転倒リスクの把握や健康状態の確認等、安心した利用者サービスに繋がり、また、業務の効率化を図る出来ました。その他、養護老人ホーム及びデイサービスではインカムを新たに導入したことで、スムーズな職員連携を図ることができました。デイサービスセンターでは、ご利用者の社タイアップした企業から受託した袋詰めなどの軽作業をご利用者に担ってもらう取り組みを実施しました。ご利用者に役割を持ってもらうことで、作業を通じた達成感を得られる環境を整え、通所意欲及び利用率の向上に繋げることができました。

働きやすい環境づくりに向けた取り組みの推進

床走行式リフトの安全な使用方法について再確認を行いました。また、移乗介助が必要なご利用者を対象に、ご利用者が安全かつ負担のない介助方法を検討し、個々に沿った移乗機器の選定を行いました。また、移乗シート等の追加導入を行ったことでノーリフトケアを進めていく一歩となりました。

年間4回の職員交流会及び、インターンシップ生の歓迎会などを企画しました。実施にあたっては、全部署の職員に呼び掛けるとともに、テーマトークの書いたカードを使用したり、チームで協力して行えるゲームを行うなど、他部署の方と自然と交流できるような機会を設けました。参加した職員からは、「他部署職員と話ができて、良かった」や「チームで行ったゲームが楽しかった」などの声があり、他事業の相互理解と職員間の関係性構築に向けた取り組みを進めました。

多様化するリスクに対応できる体制の構築

多様化するリスク対策に向け、施設内ではヒヤリハットについての強化月間の取り組みを進めるとともに、非常災害に備えたBCP計画に基づいたシミュレーションを行いました。併せて、平時からグループウェアを通じて様々な情報を発信・共有することで、有事における事業継続体制を構築することができました。



各施設事業執行状況

4

光明荘



事業施行概要

オール光明荘で取り組む支援の定着

利用者の暮らしの充実に向けた「根拠ある個別ケアの定着」、クリーンレスキュー事業やこどもの居場所づくりなどの「地域コミュニティでの活動の定着」、職場環境や業務の改善に取り組む「職員の働きやすさの定着」として、3つの支援の定着に取り組みました。

重点項目

効率性の高い業務体制の構築とDX化の推進

多職種で構成する生産性向上委員会を立ち上げ、見守り支援機器としてaams(アアムス)140床とカメラ20台、スマートフォン15台、インカム55台を導入し、ケアの質向上と職員の業務改善に取り組みました。

見守り支援機器aamsによる全入居者のバイタルや睡眠データの計測をリアルタイムに行うとともに、個々の体動に応じたアラート設定を行うことで、離床センサーとしての役割も兼ねることができ、更に職員が常時装着するインカムと連動することで、複数の職員が同時に確認し、事故のリスクヘッジに繋げることができました。

また、インカムにおいてはaamsとの連動のみでなく、他職種との申し送りや毎日の朝礼等で活用することで、職員間の情報共有を迅速かつ円滑に行うことが可能となりました。

質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

居宅介護支援事業においてACPの啓発が図られるよう検討を重ね、「みんなの人生会議」を参考に、今後の過ごし方やご自身の人生とどう向き合われるのか、どのような医療やケアを受けたいか、一人一人のアセスメントを深めながら、個々のケアプランへ反映しました。また、訪問看護事業所においても、最期の時を自分らしく穏やかに過ごしていただけるよう、今何がしたいのか、何を食べたいのか等、すぐに答えを求めず、本人の意向や想いを尊重するとともに、適切なタイミングで支援がきけるよう、他事業所と情報共有を密に行い、医療連携の強化に努めました。

働きやすい環境づくりに向けた取り組みの推進

清潔な職場環境整備の一環として、来客及び職員用トイレ3ヶ所の改修工事を行いました。また、特別養護老人ホームにおいて、新しいグループを創設、グループの細分化と勤務時間の見直しを図り、働きやすい職場環境づくりに取り組みました。

職員の他事業に対する理解とモチベーション向上に繋げるため、3月に各事業の「取り組み報告会」を開催しました。所属外の事業推進について触れる機会となり、それぞれの取り組みに対して感心の声が聞かれ、事業間の相互理解に繋がりました。



多職種連携によるケアの充実

ご利用者の口腔機能の維持・向上を目指し、多職種が活発に意見交換出来るよう、口腔ケア会議の見直しを行いました。歯科医師、歯科衛生士と連携を深め、歯科医師等による口腔内評価を基に、口腔ケアが困難な方に対しては歯科衛生士が行うケアのお手本の動画撮影を行うなど、スムーズな情報共有と正しい口腔ケアの実践に取り組みました。

達成内容 口腔ケアマニュアル【総論編】【実践編】を作成・周知するとともに、口腔の健康状態の評価及び情報共有書を活用しながら、変化があれば特記事項に記載し評価することで、次の活用方法の検討に繋げることができました。また、誤嚥性肺炎による入院者数についても、取り組みが稼働した8月以降は1名となっています。

ノーリフトケアのさらなる発展に向けて、すべての介護職員が機器の活用ができるよう、機能訓練指導員と連携を図りながら整備を進めました。職員の負担軽減・業務改善の視点を軸として、毎月の生産性向上委員会の中で評価・検討を重ね、リフト対象者の選定基準と効果検証の仕組みづくりに取り組みました。

達成内容 新たにリフト1台とスリングシートを追加導入し、対象者の拡充を図りました。すべての棟に導入したことで、起床・臥床時間の幅が広がり、ご入居者の体調や希望に応じた支援が可能になりました。また、入居者の体調変化等も視野に入れた評価検証の仕組みを作ることで、職員の負担軽減にも繋げることができました。

地域 公益事業

地域の“頼れるパートナー”を目指して



こどもの居場所づくりを進めるため、和泉市子育て支援課や参画している他施設と協議を重ねました。こどもたちが自分らしく自由に過ごせる居場所として、6月より「ヒミツキチふせや」を毎週1回開催しました。近隣小中学校の生徒やPTAとの関係構築を進めたことで、周知活動等、協力をいただくことができました。

より多くのこどもたちが参加できるよう、学生ボランティアや民生委員等の協力を得ながら、チラシ配布やポスター掲示、親子で参加できる季節イベントの開催など、取り組みを進めました。

近隣でも同様の取り組みをされているが、場所の確保に課題を抱えている団体との連携を進め、1月より協働開催することになりました。

また、それに伴い、子ども達のスケジュールに沿った開催時間に変更しました。また、当初は学習支援をメインコンセプトとしていましたが、同事業を行っている他団体との情報共有を行い、一部コンセプトを緩和しました。その結果、参加者が増加し、運営体制の強化にも繋げることができました。参加することも抱える課題については、スクールカウンセラー等とも情報共有を行い、解決に向けて取り組みを進めました。

高槻荘

事業施行概要



たくさんの方に「豊かで潤いのある生活」を届けたい

デイサービスセンターのリニューアル、桃園拠点での障がい福祉サービスの開始、子育て世帯訪問支援事業や医療的ケア児の看護業務等を通して多世代にサービスを提供することができました。新任職員対象の社内報やリーダースキルアップ研修の開催、TEAM事業での取り組み発表、社内インターンシップなどを通して、職場内コミュニケーションの醸成に取り組みました。

近隣幼稚園や小学校、中・高等学校との交流に加え、地域向けイベントの開催、生活困窮者自立支援事業や障がい者就労センターからの職場体験・実習の積極的な受入れを通して地域福祉に寄与しました。

ステップアップ事業

これからも10年愛される高槻荘ブランディング



高槻荘のこれまでを振り返り、これからを考える過程で、高槻荘らしさを表現するBI（ビヘイビア・アイデンティティ）理念の実現に向けた計画・行動の策定に取り組みました。

達成内容

職員個々のケアやサービスに対するこだわりを聞き取り、取りまとめた上で、行動指針や高槻荘中期計画の策定に向けた準備を進めました。

介護の仕事を“価値”で伝える。様々な媒体を利活用し、ご利用者やそのご家族、地域の方々、将来の介護人材、そして在籍職員に訴求し、高槻荘サポーターの増加活動に取り組みました。

達成内容

SNSでの発信や全国社会福祉事業団協議会での実践研究論文、大阪府高齢者福祉実践・研究大会での発表機会などを通してSNSではフォロワー1,000人以上、求職者の職場見学70名以上を受け入れ、多くの人に高槻荘を知ってもらいました。



リニューアルしたデイサービス事業での展開

通所事業を利用されているご利用者にも参加していただき、屋台の出店や昔遊びの伝承活動など、児童向けイベントを2回開催、近隣小学校3年生の探求授業への協力を通じ、世代間交流を進め、地域作りの拠点としての機能作りに取り組みました。

ノーリフトケアの実現と推進

リフトリーダー養成研修の受講を進め、年度末計14名のインストラクターが中心となって、全職員対象のリフト操作の見極めをはじめ、新任育成プログラムでの標準化などを通して、安全に利活用できる体制作りに取り組みました。



DBD13（認知症行動障害尺度）に着目したLIFEデータを活用したケアの展開

特別養護老人ホーム・グループホーム・小規模多機能センターでBPSDが顕著なご利用者を対象にした事例研究をはじめ、認知症ケアチームを発足し、ケア手法の探求に取り組みました。



地域 公益事業

独自配食サービスの展開

行政・市社協、近隣小学校へのニーズ調査を行うに留まりましたが、調査の過程で小学校児童への朝食支援及び開校時間までの待機場所としてのニーズがあることがわかり次年度につなげることができました。

「よりそう想い」
を大切に
たくさんの笑顔
を守りたい！

各施設事業執行状況

6

白島荘



事業施行概要

子どもからお年寄りまで すべてのニーズに対応できる力を
地域公益事業として「白島荘子ども広場」を白島荘や光明の郷ケアセンターで概ね月1回程度開
催し、季節のイベントやカレー作り等のイベントに地域の小学生にも参加していただきました。
また、コロナ渦により規模を縮小していた地域の催事についても、今年度は、コロナ前同様の規模
で開催することができました。ヤングケアラー等の支援では、社協や学校などの機関と連携し、
情報共有を行いました。在宅サービス、施設サービスにおいては、「ご利用者の意思」や「可能
性」を尊重することを共通認識とし、それぞれの多様なニーズに可能な限り対応し、地域の安心
できる存在として認知してもらえよう、白島荘グループ全体で取り組みました。

ステップアップ事業

多様なニーズに対応できる体制の構築

特養での重度化および、在宅の看取り対象者の支援や受け入れ態勢の強化を目的に、喀痰吸
引に関する特定登録者を増やし支援体制の強化を図りました。

達成内容

喀痰吸引に関する特定登録者の研修を新たに3名修了しました。計16名の特定
登録者となり、夜勤帯での喀痰吸引が可能になったため、短期入所生活介護で
の看取りの方1名、喀痰吸引が必要な方の受け入れを1名行うことができまし
た。

嚥下調整食のテクスチャーと栄養バランスを工夫し、摂食嚥下障害を有するご入居者の誤嚥
を予防しながら、栄養状態の改善を図りました。その効果を検証するため、対象者の食事記
録、体重変化、血液検査データなどをもとに評価を行いました。

達成内容

新たな機器を導入し、ペースト食調整時の加水量を最小限に抑えることで、料
理の同体積あたりの提供栄養量が平均で約50%向上しました。また、調整方法
のデータ化により、安定した濃度や形状での提供が可能となり、品質の均一化
が図られました。さらに、加水量の削減により素材本来の味がより感じられる
ようになり、味に対する入居者の評価も向上する結果となりました。提供開始
から4ヶ月後には、対象入居者の体重が平均で約3%増加し、摂食嚥下障害のあ
る方々の栄養状態を良好に維持することができました。

効率性の高い業務体制の構築とDX化の推進

リスク対策の明確化や個別ケアの推進の為、AIカメラの他、業務負担軽減を目的にナースコールとパディコムの連動を可能にするため法人のプロポーザルにおいて機器導入について提案を行い、AIカメラ「Vcare」を10台導入することができました。また、昨年度からの取り組みの集大成として高齢者福祉実践・研究大会での発表や他法人に向けて研修講師としてノーリフトケアについての発信を行っています。更に、施設としてノーリフトケア協会会員の登録を進め、ノーリフトケアコーディネーターの研修を修了することができました。

質の高いサービス提供を実現するための取組の推進

当施設では、LIFEの口腔項目で全国平均と比較して「歯の汚れ」や「歯茎の腫れ」の割合が高かったことから、今年度は口腔ケアの強化に取り組みました。個別のデータはケアカンファレンスや3か月ごとの見直し時に活用し、ケア内容を適宜修正。施設独自のマニュアルを作成し、歯科衛生士の助言のもと、口腔ケアが難しい方への対応を統一しました。その結果、誤嚥性肺炎の発症は前年比で1名減少しました。

デイサービスでは、在宅生活の継続を支援するためAI歩行分析アプリを導入し、機能訓練計画の作成に活用。LIFEにもデータを提出し、ADLの維持向上を目指して車椅子利用者が歩行器で歩けるよう支援するなど、ケアの見直しを行いました。

質の高いサービス提供を実現するための取組の推進

認知症への理解を深める取り組みとして、認知症およびBPSDに関する研修を実施しました。認知症チームケア委員会では、BPSDに関する事例に継続して取り組み、評価を行いました。また、職員のアセスメント力向上を目的に、アセスメントの意義を学ぶ研修や、事例をもとにアセスメントを実際に作成する実践を実施。さらに、様式の見直しを行うなど、より理解しやすい形に整備しました。

ケアマネジャーのスキル向上を図るため、ケアプラン向上委員会では会議の進行方法について意見交換を行い、進行の統一とケアプランの個別性向上に取り組みました。年度初めと終盤に実施したご家族向けアンケートでは、高い満足度が得られました。また、非常勤職員もケアプラン会議に参加するようになり、ケアプランがより身近で実践的なものとなりました。

地域 公益事業

地域にとっての「はくしまさん」

東部地域包括支援センターが主催し、2小学校区で認知症カフェを立ち上げ、計7回開催しました。地域の方々に徐々に浸透し、毎回20～30名の方に参加していただいています。また参加者に楽しみながら認知症をご理解いただけるよう、認知症に携わる関係機関の方々にもご協力いただき、体操や研修などを実施しました。

ヤングケアラー支援のキーワードである「教育・休む・遊ぶ・健康」を基に、ヤングケアラーの発見に向け、白島荘と光明の郷ケアセンターで「こども広場」を開催しました。近隣小学校の児童を対象とし、8回開催し89名に参加いただき、小学校や地域に広く取り組みを認識していただくことができました。

課題を抱えているご家庭への配食支援では、3世帯に週16食を配達しています。また、近隣の高校での居場所づくり活動に参加し、他の支援団体と連携しながら高校生の支援に関わる機会を得ることができました。

弁当配達を通じ、このうち1家庭は、ヤングケアラーの環境となっている問題点に対し、白島荘Gや他機関と連携を強化して関わったことで、親御様の社会復帰への第一歩を踏み出す支援を行うことができました。こどもから高齢者まで幅広く地域における取り組みを行うことで白島荘がより身近に感じられる存在となれるきっかけとなったと思います。

チーム
「KYOHEI」
始動！！

各施設事業執行状況

7

東大阪養護老人ホーム

事業施行概要

施設と地域の共生を目指して

コロナ禍後の新たな地域との関係を再構築することを目標に、夏祭り・ふれあい祭りなど施設を活用した地域との繋がり場の提供や、地域住民・入居者の方々が参画する「子ども食堂」・「つどいサービス」を運営するなど、同じ地域で共に生きていることが実感できる場を提供することができました。

ステップアップ事業

子どもたちの「笑顔」と「未来」のために

地域の子どもたちが集まり、交流する場を提供することを目的に、令和6年4月より開始した子ども食堂。開設当初は5名ほどの利用でしたが、地域掲示板や口コミもあり、現在では保護者の方含め30名ほどの方々に利用していただけるようになりました。

達成内容

当初、小学生の子ども達の利用を想定しておりましたが、0歳～3歳児の親子連れの利用も多く見られ、食堂に来ている小学生が0歳児のお世話をしたり、一緒に遊んだりする環境が自然とできあがり、子ども達にとって居心地の良い場所となりました。

運営は、地域住民、入居者、近隣大学の学生などのボランティアの協力で成り立っており、地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがいを地域と共に創っています。



住み慣れた場所での暮らしを続ける

前年度は個別機能訓練のみ行っていましたが今年度は個別機能訓練と機能訓練指導員による午前・午後の集団体操を週5日、土日は介護職員による集団体操を実施し、筋力強化及び体を動かす機会作りに取り組みました。また、介護力を高めるため、機能訓練指導員より移動支援や重度化した方への対応方法の勉強会を開催し、介護力向上に取り組むことで、転倒に伴う入院者は令和5年度は7件でしたが、今年度は4件へ減少することができました。

地域交流の場を作り、地域への発信基地となる

令和6年度は、5年ぶりに地域住民の方も参加できる「夏祭り」と「ふれあい祭り」を開催しました。地域の方にも「なくなってしまった祭りを再び開催してくれて嬉しい」とのお言葉をいただきました。また、地域住民の方を対象に、地域交流室を開放して詐欺被害防止講座、意思決定支援講座を開催しました。さらに、養護老人ホームの入居者が体験談の講師となり、ハイブリッド方式で地域の居宅事業所、奈良県にある養護老人ホームなどに、アルコール依存症についての研修を行うなど、地域への情報発信の取り組みとして貢献できました。



地域 公益事業

ヤングケアラー支援体制の構築

当施設の職員や地域住民及び地域のケアマネージャーに向け、ヤングケアラーについての知識や理解を深めるための研修を実施しました。

また、今年度は、ヤングケアラーの発見には至りませんでした。対象者の早期発見に繋がるよう、子ども食堂を通じた、情報収集を実施しました。

その人らしく、
ここで...

各施設事業執行状況

8

永寿園とよなか



事業施行概要

重層的支援体制構築のためのプラットフォームの形成

地域共生社会の実現に向け、当施設は地域の方々も利用できる公共的な場としての役割を強化しました。地域交流スペースでは「ぐんぐん元気塾」や子ども会のイベントを開催し、福祉・医療・栄養・保育の専門職の連携による公開講座も実施しました。さらに、不登校児や長期休暇中に独居となる子どもたちの「第2の居場所」作りを進め、高齢者だけでなく、子育て家庭や地域住民への支援体制構築にも取り組みました。

ステップアップ事業

科学的介護の実践と質の高いサービスの構築

ご入居者毎のアクティブプランを作成しました

達成内容

特養において、ご入居者ごとに異なる生活リズムを捉えるため、今年度5月に全床に眠りスキャンを設置しました。眠りスキャンの測定結果は、24Hシートに落とし込み、ケアに活かすことが出来ました。アクティブプランについては、睡眠状況を参考にご本人が安心して生活できるよう、内容を追加しケアプラン会議にて検証しました。



ご入居者毎の必要な支援の共有・実践・定着に取り組みました

達成内容

特養で眠りスキャンを使用し、睡眠状況の把握・夜間ケア・事故リスクの予測に大いに活用することができました。24Hシートに眠りスキャンの検証結果を落とし込むことが出来ました。事故や体調不良が起こった際には、「眠りスキャンでちゃんと眠れているか確認をする」意識を職員全体で共有できました。また、プランの変更については、変更時に周知する仕組みを作り、職員全体で統一したケアに取り組めるよう、情報伝達の体制整備に努めました。

効率性の高い業務体制の構築とICT化の推進

養護老人ホームで介護量の多い特定契約入所者を3階に、介護量の少ない一般入所者を4階に住み分けしていただくとともに、4階フロア共用部にAIカメラを設置し、インカムシステムを活用して職員間の連絡を密にすることで、4階ご入所者の遠隔見守りが可能となり、夜の介護職員を3階に集め効率的に介護業務を行える体制を構築しました。

働きやすい環境づくりに向けた取り組みの推進

特養において、スマート介護士資格2名の取得を目標としていましたが、「Basic」(介護現場でICTや介護ロボットを活用できる人材を育成するための基礎資格)について2名受験し、1名合格しました。

資格取得をしたことにより、ICTの活用方法について、他の職員への伝達方法自体を見直すきっかけとなり、ICTに不慣れな職員にも理解しやすいよう、専門用語をわかりやすい言葉で丁寧に説明することや、難しいことを簡単に伝えることができる技術が身に付きました。インカムの使用方法についてもマニュアルを作成し、効率的に使用できる仕組みを整えることができました。

令和6年度、特養では多くの職員が継続して勤務しており、さらに、働きやすい職場環境づくりを進めていきます。

質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

コナー保育の実践について、1年を通して専門分野の講師に保育の様子をみていただき、適切なアドバイスを受けながら実践を重ねました。子どもたちの発達に応じた玩具を準備、提供し、自発的な遊びを通して成長を促せるよう環境を整え、職員も実践の中で「どのような玩具が発達に効果的か」を学び、保育の質向上に繋げることが出来ました。

地域 公益事業



地域ぐるみでの子育て、子育て支援の推進

保育での園庭解放の定期実施や、地域交流室での子育てサロン「ももちゃん」の定期開催など、子育て支援を継続しました。普段から不登校児を受け入れる場所としてサークル活動室を解放し、学校の長期休業期間に昼間独居となる児童のために、地域交流室を開放し「第2の居場所」となるよう努めました。

豊寿荘



事業施行概要

根拠ある思考スタイルの確立

特別養護老人ホームにおいて、ケアの根拠となる24時間シートのブラッシュアップを行い、根拠を持った支援に取り組みました。一部マニュアルをデータ化し、いつでもスマホで確認出来る体制を構築しました。職員の習熟度については、オンラインを活用し確認を行いました。

ステップアップ事業

より効果的な介護予防に資する取り組みの確立

介護予防センター来所者延べ1250名に体組成計を用いて、継続的に筋力量の測定を行い「上肢筋力とフレイルには関連がある」といった結果を導き出し、上肢筋力アップの運動プログラムについて、グループ活動で作成を進めました。

達成内容 介護予防、フレイル予防に対して数値やグラフで効果検証を可視化することで、介護予防への取り組み意識や知識の向上へと繋げることができました。

タスクシフティングの推進

介護職員と間接業務担当職員の業務内容について、洗い出しを行い業務分担の刷新を行いました。また、業務の洗い出しから、超過勤務につながるシフト作成に着目し、自動作成ソフト「シフトメーション」を導入し改善を図りました。

達成内容 通所介護事業に資する業務及び主事業務については人員の影響もあり進めることができませんでしたが、介護職員の残業時間についてはICT導入前後で、50%の超過勤務が削減されました。



在宅サービス事業等の強化のための取り組み推進

通所介護事業においては、WHOQOL-OLDを活用したQOL評価の「見える化」に取り組みました。データが不十分であったことから、サービスへの具体的な還元には至りませんでした。この取り組みを通じて、認知症支援における専門性強化の重要性を再認識する機会となりました。それら課題を踏まえ、次年度の取り組みの検討を進めました。

職員一人ひとりの力を高めるための取り組みの推進

人材育成向上委員会を発足し、組織的に人材の育成に取り組みました。複数の委員による育成方針等の検討により、育成担当者の負担軽減と多角的にアプローチすることが出来ました。

外国人人材の育成については、3年連続で留学生の受け入れをしており、介護福祉士取得に向けた豊寿荘「五か年留学生キャリアパス」を作成しました。

質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

ケアの個別性を高めるために、アセスメント以前に多職種の意見を集約する場を設け、より多角的な視点に基づいた、ケアプラン原案作成のプロセスを確立しました。

その結果、より多くの情報を根拠としたケアプランとなり、ケアの質の向上に取り組みました。

地域
公益事業

こどもランチによる食を通じた居場所づくり

学校の長期休みに計34日間開催し、2000人以上の子供が利用されました。運営には、学生から高齢者まで地域住民のボランティア延べ350人以上が参加されました。子どもにとっても運営に携わる地域住民にとっても居場所となるができました。

ボランティアには、健康大学OBや介護予防センターを利用されている高齢者に多く参加していただき、高齢者の生きがいづくりに寄与することができ、また、多くの子ども達に利用してもらえるように、学校、関係機関と連携、情報の共有に努めました。食事以外に課題を抱える子どもの発見や具体的な支援の実施には至りませんでした。多世代交流といった機能を最大限発揮できました。引き続き地域のハブ機能としての役割を担っていきます。

地域と共に
大躍進！

各施設事業執行状況

10

万寿荘



事業施行概要

こころ元気・からだ元気・つながり元気！

「アクティブシニア健康体操教室」を週1回実施し、フレイル予防に取り組みました。また、食事表にカロリー表示を加えることで、ご入居者ご自身が日々の健康管理に意識を持てるよう工夫しています。口腔ケアについては、近隣の歯科医師の協力を得て「口腔ケア教室」を開催し、予防と意識啓発を図りました。さらに、在宅事業も新たに開始し、施設内外を問わず、すべてのご利用者が安心して暮らせる環境づくりに取り組みました。

ステップアップ事業

アクティブシニア健康体操教室

運動内容を作業療法士と協力し効果を評価しました。歯科医師による口腔指導と栄養士による栄養に関する情報提供を行いました。

達成内容 教室に参加していただいたことで、健康状態は全体的に維持することができました。近隣歯科による口腔指導とカロリーの情報提供を行いました。

教室参加者に対して個別計画を作成し生活リハビリの充実を図ります。

達成内容 体力測定の結果を数値化しご入居者と共有しました。課題シートを作成しました。個人的にお悩みをお聞きし、悩みにアプローチした柔軟体操などを提案しました。

地域 公益事業

さつきちゃん塾の開催による学習支援

大阪大学の学生や地域住民の方々にも協力していただき、長期休みの開催に加え、月1回のさつきちゃん塾を開催し学習支援に取り組みました。その取り組みの中で、課題のある子ども達、ご家庭の支援に繋げることができました。



大規模改修に向けた取り組み

大規模改修に向けて、計画に則り、年度内に設計業者が決定し、設計作業に着手し、令和7年7月までに実施設計を完了し、施工業者の選定を経て、10月に工事着工する計画を立てました。

在宅サービス事業への新たなチャレンジ

令和6年4月より、万寿荘訪問介護事業所「れん」を立ち上げ、居宅介護支援事業所との関係性構築に積極的に取り組みました。その結果、池田市内の居宅からの依頼が増加し、地域から選ばれる事業所としての信頼と評価を得ることができました。

活気ある万寿荘

居室担当が中心となり、各棟で定期的に座談会を開催しました。座談会でのご入居者の意見や要望を取り入れ、ご入居者が中心となり企画の立案、起案書の作成、計画実施まで行いました。

また、ご入居者が他施設へ有償ボランティアの講師として参加されるなど、高齢者のやりがい・いきがいに繋がりました。



いつまでも
自分らしく
いきいきと

各施設事業執行状況 河南荘

11



事業施行概要

地域のセーフティーネットとしての役割を果たすことができました

地域包括支援センターから緊急性のある入居依頼に対して、体験利用として迅速に受け入れスムーズな入居に繋がりました。SNSではインスタグラムを積極的に活用し、河南荘での生活風景をアップする事で、軽費老人ホームA型の広報活動に努めました。

ステップアップ事業

就労支援を通じて、生きがい (やりがい) を高める

就労支援活動である施設内でのネジ梱包作業や施設外での芝刈り作業とともに、なにわ和楽日の会の清掃活動に加え、今年度から美原荘の車椅子清掃業務を請負い、ご入居者の就労機会の拡大に努めました。

達成内容

目標値就労機会延べ人数1000名に対し、就労者の入院や感染症の流行により、新規就労4名、延べ576名の就労機会の提供となりました。就労を通してご自身の役割や生きがい創出に繋がりました。今後は就労だけでなく、ご入居者ひとり一人の生きがいに焦点を向けた取り組みを行っていきます。

重点項目

職員一人ひとりの力を高めるための取り組みの推進

施設移行までの要介護者への介護を想定し、OJTを通じた介護スキル向上に取り組みました。来年度はMCI（軽度認知症）、認知症進行に備えた認知症介護を実践する体制作りに取り組んでいきます。

質の高いサービス提供を実現するための取り組み推進

「河南荘いきいき百歳体操」で栄養講座や口腔体操を実施し運動・栄養・口腔の観点で介護予防に取り組みました。その他、マッサージ体験会、お灸教室、パンの訪問販売など新たにご入居者が参加できる催事を開催し満足度向上に努めました。



河南荘の存在価値を地域へ

地域 公益事業

訪問型サービスD事業（移動支援）に加え、地域の福祉有償運送では定期利用以外の緊急的なニーズに柔軟に対応し、安心して通院していただくことが出来ました。通所型サービスB事業を実施する中で、従事者として地域の方々が、ご入居者と一緒に活動する機会を作り、河南荘の存在感を地域にアピールする事が出来ました。

Mission
—法人の使命—

私たちはつながるすべての
人の夢を応援し、すべての
人の幸せを支え続けます



OSJ Vision 2031

可能性を高め、地域と
ともに躍動する法人へ



Value (行動指針)

実践的理念
「よりそう想いつながる心」



OSJ工房よりそいの丘

事業施行概要

地域密着・コミュニティの創造へ

地域共生社会の実現に向けて、子供から大人、高齢者、障がいの有無に関わらず、地域住民の方が集える場になるよう敷地内の開放やイベントを開催しました。

今後は更に、よりそいの丘が中心となり、地域の集える場としての役割を果たします。

ステップアップ事業

診療所、短期入所施設の開設準備

医療的ケア児とその家族に対する支援ニーズに応えるため、人材の育成・確保と設計図書の完成

達成内容

看護職員等の専門職の確保、設計図書の完成には至りませんでした。人材育成については外部研修の受講など受け入れ開始に向け取り組みました。



新規事業の取り組み推進

令和6年7月より開始した児童発達支援・放課後等デイサービスについては、一人ひとりの特性に応じた療育プログラムの作成を行いながら日々見直しと改善を行いました。また、外部の法人からの協力のもと、より専門性の高い支援に向けて取り組みを進めました。

令和6年4月に開始した共生型生活介護については、既存の就労継続支援B型事業と連携しながら、状態に応じた適切な支援を検討しました。また、農福連携については実施場所の変更などにより一旦休止となりましたが、次年度は外部販売も含め改めて連携を強化していきます。



質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

就労継続支援B型ではパン製造、販売を含め軽作業の内容も見直したことで平均工賃を約3割増やすことができました。また、施設近隣で購入の希望ニーズが高いことを受け、近隣での販路先の確保を進め、そのニーズに応えることができました。

計画相談に関しては、外部研修を中心に受講し、そのスキルを磨くとともにその得た知識を持って、実践することで専門性のさらなる向上につながり、また、効率化も図れたことで前年度比、平均10件のケースを増加することができました。

地域
公益事業

不登校児の居場所と高齢者の活躍の場をマッチング

トーキョーコーヒーとの連携については、今年度一度しか実施できませんでした。木々の伐採も完了したため、令和7年度は敷地をより一層活用し不登校児や近隣の保育所等と連携できるよう検討しました。

また、喫茶を利用されている地域の高齢者が、前年度比15%増加していることから、今後は、不登校児等との連携を通して、地域の高齢者が活躍できる場を創出し、地域の居場所として存在感を強めやりがい作り、生きがい作りを創出し地域の活動拠点として一層の発展を目指して、取り組みを開始しました。

この街で
「暮らす」「働く」
を応援します

各施設事業執行状況

13

みずほおおぞら



事業施行概要

障がい者・高齢者等の地域生活支援体制の充実

基幹支援センター事業においては、障がいのある方が安心して地域で生活できるよう、行政・福祉サービス事業者・地域住民（自治会）との連携強化に取り組みました。会議や会合に積極的に参加し、地域からのSOSを迅速に把握することで、適切なサービスへ迅速につながることができました。

また、ご利用者の希望を尊重しつつ、みずほおおぞらの各サービスにおいて可能な限り受け入れができる体制を構築しました。あわせて、緊急時の対応や地域移行の推進において、適切な職員配置を進め、地域生活支援拠点としての役割を一層強化しました。

ステップアップ事業

災害パンを通じた障がい者・高齢者の社会的役割の創出

災害時非常食パン販売に向けた取り組み

達成内容

災害時非常食パンの品質向上及び、就労継続支援A型ご利用者が製造しやすい形状を目指し、工程の再検討を行いました。また、ご利用者がデザインしたパッケージを採用する等、一新した非常食パンの令和7年度中の販売に向けて準備を進めました。



障がい者の多様な就労ニーズに対する支援の充実

達成内容

就労継続支援B型の利用者1名が一般就労に向けて挑戦し、約2か月間にわたって施設外支援を行いました。次年度も、ご利用者の可能性を広げる支援を行うとともに、一般就労に向けてチャレンジしてきます。

地域生活の継続、実現の推進に向けた取り組み

豊中市からの委託を受け、令和6年12月より拠点コーディネーターを配置し、地域生活支援拠点としての機能強化を進めました。一人暮らし等への支援には至りませんでした。緊急受け入れ対応として、虐待やご家族の体調不良によるケースの支援を行いました。また、地域移行後の生活も見据え、ご利用者が安心して暮らし続けられるよう、介護事業所みのりで実施してきた外出支援の実績をもとに、次年度のヘルパー事業開始に向けた準備を進めています。

医療的ケア児者の受け入れ態勢の構築

重症心身障がい者の受け入れ態勢を構築するため、他施設見学や外部講師を招いて医療的ケア児についての研修を実施し、知識や技術の習得を進め、職員のスキルアップ向上に取り組みました。

アウトカム評価の強化

専門職がLIFEへの入力を行うことで、入力にかかる業務時間の削減を行いました。また、専門職が関わることでより利用者のことを知ろうとする意欲が芽生え、個別ケアの充実につなげることが出来ました。

医療・介護の連携による個別支援の充実

見守り支援機器「aams」を導入し、効果的な運用ができるよう、生産性向上委員会を軸に、検討を進めてきました。今後は、特に夜間帯の利用者の状況を詳細に把握し個別ケアの充実に努めます。また、夜間の巡回に係る職員の負担を軽減します。

児童育成支援拠点

令和7年4月1日より豊中市より委託を受け、新事業「児童育成支援拠点みずほおおぞら」を開設するため、多職種連携、相談機能、障がい入所支援施設での児童受け入れの経験を活かし、施設全体で子どもの居場所づくりの準備に取り掛かりました。



地域 公益事業

子ども食堂の新たな取り組み

地域近隣の小学校と連携し、学校の家庭科調理室にて朝の子ども食堂「おはよう食堂」を計14回の開催で801人の小学児童に利用してもらいました。この活動では、学校に来るのが難しかった子どもが登校できるようになったなど、食を通じて、子どもの健全な育成に寄与することができました。今後は、地域住民や地域ボランティアへ運営移管を進め、「地域の子どもは地域で育てる」体制を構築していきます。

かがやき



事業施行概要

老健の機能を活かし“かがやきリピーター”を増やします

ご利用者の在宅生活継続を支援するため、老人保健施設における在宅生活を見据えた効果的なリハビリの提供、多職種連携による質の高いサービスの提供、入所事業と在宅事業の連携による円滑な在宅復帰支援と生活の継続を目指して、以下のことに取り組みました。

ステップアップ事業

在宅サービスにおけるリハビリ機能の強化

通所リハビリ・訪問リハビリ・短期入所のご利用者や老健の在宅復帰者に対し、在宅生活を維持を促進するため、在宅サービスにおけるリハビリの強化を図りました。

達成内容

在宅生活を維持するために必要な筋力強化運動や認知症予防の取り組み、自宅環境に合わせた動作訓練などを取り入れた個別プログラムを作成し、その情報を老健、短期入所、通所リハ、訪問リハの全リハビリ職員で共有し、在宅サービスの維持を念頭においた統一したリハビリの提供を行いました。
また、個別プログラムを効果的に進めるため、パワーリハビリ機器導入、介護職員による介護予防運動指導員資格の取得、ご利用者の自主性を促す『マイポートフォリオ』の作成と活用を行いました。



在宅生活を見据えた質の高いサービス提供の提供

老人保健施設において、限られた入所期間の間で効果的にリハビリを提供するため、日々の活動量を出来るだけ増やす取り組みとして、基本の個別リハビリ、集団体操に加え、理学療法士等が行うサーキットトレーニングを開始しました。

リハビリ効果をより高めるため、リハビリ・栄養管理・口腔管理の一体的実施を進めるにあたり、歯科衛生士によるスクリーニング・口腔ケア、介護職員等への口腔ケア指導により、誤嚥性肺炎の防止に努めました。

在宅サービスにおけるリハビリ機能強化の一環として、短期入所のご利用者・ご家族に対して言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士による嚥下評価やミールラウンドを通し、経口摂取継続に関するアドバイスをを行いました。

医療処置管理を必要とされている方のニーズに積極的に応える

老人保健施設において、医療的管理が必要で状態が不安定な方であっても、医師・看護職員・介護職員等の連携を密にし積極的な入所支援を行いました。その結果、所定疾患で療養されたご利用者数が前年度比25%増加し、2名のご利用者にターミナルケアを行うことが出来ました。

効率性の高い業務体制の構築とDX化の推進

スマート介護士の資格を取得した介護職員が先頭に立ち、心拍、呼吸、体動、睡眠の状態などを離れた場所から見守ることができる見守り支援介護ロボットの導入を行いました。また、職員に対し、機器の活用に関するOJTを積極的に行い、職員のICTリテラシーを高め、既存のインカムや見守りカメラ等の複数機器を全ての介護職員が活用出来るようになりました。



地域 公益事業

外出支援における要支援者への活動支援

高齢者の外出を支援する「かがやき号」について、他法人との連携による実施日の増便について、同地域の他法人に働きかけましたが実現には至りませんでした。が、ご利用者延べ人数が前年度比11%増やすことが出来ました。地域ニーズに確実に応えることができるよう、他法人との連携について、今後も働きかけるとともに、自施設での増便についても検討を進めていきます。

新たな
介護人材の
発掘を目指す

各施設事業執行状況 15

OSJ 人材育成センター

事業施行概要

将来にわたる介護人材育成プログラム実現に向けて

「日本語アカデミー」と「とよなかケアスクール」による介護人材育成の受け入れ態勢を安定させ経営バランスの整備を進めました。

ステップアップ事業

介護人材を育成する職員を育成する

OSJ研修・研究センターとの協働で職員育成を行い、特に外国人職員の育成手法については、携わる人材の確保にも言及しながら確立を目指しました。

達成内容

外国人職員の育成に関する研修を2回、北部・南部の施設を対象に地域別の開催を実施しました。

OSJ日本語アカデミーとよなか
2024年度卒業式



外国介護人材の雇用促進のための取り組みの推進

ケアスクールにおいて選択科目として日本語表現の授業を実施しました。日本語教員を新たに雇用し、日本語能力向上へのサポートを実施しました。



地域 公益事業

重層的支援体制のための役割を果たすための取組の推進

近隣の地域包括支援センターと協働で認知症カフェを開催し、ケアスクール学生が主体となって夏、冬2回の開催運営を行いました。併せてオープンキャンパスも行い、新卒者対象の授業見学説明会を実施しました。

事務局

事業施行概要

人材の定着・育成と戦略的な業務推進策の実施

人材の定着のため、健康経営優良法人の認定を取得するとともに、ラダー教育システムの導入を行い、次年度より本格的に運用するための準備を行いました。さらに、より一層のサービスの質の向上を図るため、全施設でWi-Fi環境の整備を行い、新たなICT機器の導入を進めました。

重点項目

災害時支援体制の構築に向けた取り組み

南海トラフ等の大規模自然災害に備え、事業継続体制を強化しました。補助金を活用し、春日丘荘・四條畷荘・白島荘に非常用発電機を設置。OSJよりそいの丘には南ブロックの備蓄倉庫を新設しました。また、職員安否確認等の迅速化を図るため、災害特化型アプリを導入しました。

ICTテクノロジー化の推進

永寿園・よりそいの丘・OSJ人材育成センターにてWifi環境の整備工事を、行いました。また、各施設において、ICTの導入と利活用を更に促進する為、法人内にて、ICT導入プロポーザルを実施し、7拠点14事業からの応募があり、見守り支援機器やインカムの導入を進めました。

LIFEフィードバックデータ情報を活用した科学的介護の実践

今年度は、システムや仕様変更があったことから、実践までには至りませんでした。各施設で導入しているICT機器から得られた情報やダッシュボードと組み合わせること、また、各施設や事業所にて委員会を立ち上げる仕組みづくりなど、PDCAに係る具体的な手法について検討を行いました。

障がい児に対する新たな事業の開始

令和6年7月より、OSJ工房よりそいの丘にて、児童発達及び放課後等デイサービス事業を開始しました。

外国人介護人材への支援体制の確立

入国後の日本語教育機会の提供（オンライン教室）し、介護福祉士の受験ラインであるN2を習得するためのカリキュラムを提供しました。外国人向けの初任者・実務者研修の開校に向けてのカリキュラムの見直し、協議を行いました。外国人向けの介護福祉士試験対策講座を開講し、3名受験者のうち1名の合格者を輩出しました。また、NPO法人なにわ和楽日の会にて特定技能外国人を主体とした屋台の出店や講演を実施しました。

職業紹介・登録支援機関の管理体制構築

業務管理ソフトを導入するとともに「登録支援機関」「有料職業紹介」のセクションに分け管理体制を構築しました。今年度は沖縄県・兵庫県へ各2名ずつの紹介・支援を実施できました。

経理事務職員の人材育成

経理事務マニュアルについては、2年目の職員が見直しに携わることで初心者にも理解しやすい内容に改訂できました。さらに、事務局内での実務研修や、全施設主事を対象とした研修の機会を設け人材育成を促進しました。



働きやすい環境づくりに向けた取り組みの推進

職員満足度調査とストレスチェックの実施時期を見直し、6月に職員満足度調査、1月にストレスチェックを実施しました。職員の心理的状況等を定期的に把握することで、課題に対して早期のアプローチが可能となり、メンタル不全の予防につなげました。メンタル不調を理由に休職している職員については、前年度と比較して僅かではありますが減少しました。

メンタルヘルス対策として、令和7年1月から業務委託契約を締結した株式会社こころ機構の臨床心理士による全施設への定期訪問を開始するとともに、現場で役職者やリーダー職員、人材育成担当者が実践できるコミュニケーションスキルやセルフケア等について、事業団職員のメンタルヘルスに関する知識の底上げを図ることを目的とした研修を実施しました。

人材確保のための取り組みの推進

新卒者をターゲットにした採用ピッチ資料を新たに作成しました。介護や福祉の仕事のイメージや魅力を可視化したことで、学校訪問時により踏み込んだ説明を行い、学生のアルバイトも含めて新たな雇用につなげました。また、リファラル採用についてもLINEを通じて職員が気軽に知人等を紹介ができる仕組みを構築しました。

職員の働きがい高め、成長を実感できる取り組みの推進

インターンシップの受入れについて、事前に「施設で体験したいこと」を学生にヒアリングし、希望に沿ったインターンシップを各施設で実施し採用につなげることができました。また、リクルーターを14名選任し、学生に対してどのようなアプローチをすれば法人の魅力に気付いてもらえるか等について意見交換を行い、次年度に向けて具体的な取り組み内容をまとめることができました。

効率性の高い業務体制の構築とDX化の取り組みの推進

年末調整及び身上変更申請や給与明細発行の手続きをWEB化することで事務の効率化と職員の利便性の向上を図ることができました。また、会議の議事録や記録などの事務業務を自動化、効率化できる新たなソフトを導入し、業務負担軽減、効率化を図ることができました。



令和6年度事業報告書

研修実施内容

1. 研修実施内容

種別	研修区分	研 修 名	実施年月日	参加者	内 容
研修センター主催	一般職員向け	採用前集合研修	R6.3.4～R6.3.14 (内9日間)	36名	・法人理念・人権・接遇・緊急時対応・感染症について ・認知症ケア・障がいの理解・基本介護技術 等
		採用前・採用時基礎研修	R7.1～R7.3 (内2日間、施設状況に応じて随時)	延べ100名	・法人理念・人権・接遇・緊急時対応・感染症について ・認知症ケア・障がいの理解・基本介護技術 等
		苦情解決研修	R7.1.27	16名	・苦情発生メカニズム・苦情対応の原則 ・苦情に至らないための取り組み
		フォローアップ研修	R6.4～R7.3 (施設状況に応じて随時)	延べ20名	・施設指導員と目標を共有し、指導・フォローを行う
	主任または副主任職員向け	主任昇任者研修	R6.5.13	16名	・主任の役割・必要とされる管理業務
		第1期人事考課者研修	R6.8.23	15名	・考課する視点の確保・中間面接 等
		第2期人事考課者研修	R6.12.5	12名	・フィードバックのアプローチ方法 等
		ハラスメント研修	R6.5.30	12名	・ハラスメントの理解と具体的な対策
		OJT研修	R7.2.21	8名	・OJTの理解と実践
		リスクマネジメント研修	R7.1.27	16名	・リスクマネジメントについて・ハインリッヒの法則 ・事例紹介・KYT(危険予定トレーニング)
		メンタルヘルスクア (ラインケア)研修	R7.1.30, 2.25(Am・Pm) 2.26	100名	・組織としてのメンタルヘルスの取り組み
		財務管理研修	R6.11.21	30名	・会計管理の基礎、経費の基礎 ・予算、決算等の詳細な見方、適正な運営及び事業所ごとに見る ポイントについて ・数字を読み解くポイント(アメーバ会簿で収益性、安定性を見る 視点)
	自己啓発	リーダー養成自己啓発研修	R6.9.13～R7.2.13	8名	[[対象職員] コーチング研修(H30年度以降の分)並びにOJT研修を終了しており、施設長が推薦した者
	介護支援セミナー	介護支援専門員 受験対策セミナー	WEB(R6.7.21～R6.10.8)	24名	ー
		介護福祉士 受験対策セミナー	R6.10.24～R7.1.9	4名	ー
	介護支援	メンタルヘルス (セルフケア)研修	R6.12.11	8名	ー

2. 外部研修実施内容

研修区分	研 修 名	実施年月日	参加者	内 容
大阪府指定	介護職員初任者研修	R6.4.1～R7.2.27	79名	【講義・実習】 ・介護員としての様相の知識、技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにする
	介護福祉士実務者研修	R6.5.1～R7.2.28	70名	【講義・実習】 ・介護福祉士資格を授け、医療的ケアも含めた、介護技術を習得し、実践できる人材の養成
	大阪府相談支援認定事業者研修 (2日課程・7日課程・兼任)	兼任者(2日): R6.10.1～R6.10.25 兼任者(7日): R6.9.18～R6.12.23 兼任: R6.12.20～R7.3.7	兼任(2日): 797名 兼任(7日): 144名 兼任: 280名	【講義・実習】(7日課程・兼任研修) ・障がい福祉サービスの相談支援事業所における相談支援専門員の養成 【講義】(2日課程) ・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の養成
	大阪府サービス管理責任者等 (基礎・実践)	R6.8.15～9.27(基礎) R6.8.21～10.30(実践)	基礎720名 実践440名	【講義・実習】 ・障がい福祉サービスにおけるサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の養成
大阪府 指定	地域福祉等研修(第三号研修)	R6.4.1～R7.3.31	10名(基本) 10名(実地)	【講義・実習】 ・在宅や障がい者支援施設で地域福祉等必要な利用者に対し、知識を深め、技術を習得し実践できる人材の養成
大阪府委託	福祉サービス第三者評価 調査者養成研修	R6.8.7～R6.11.14	60名	【講義・実習】 ・大阪府において第三者評価調査者として活動する意思のある者に対し、知識を深め、技術を習得し実践できる人材の養成
	福祉サービス第三者評価 調査者継続研修	R7.2.17～2.26(基礎編) R6.11.27(スキルアップ編)	4名(基礎編) 17名(スキルアップ編)	【講義・実習】 ・【基礎編】コロナファシリティの計画により、研修施設を確保する研修に実施 ・【スキルアップ編】集合研修でグループディスカッションを行う研修
堺市委託	堺市認知症介護実践者研修	R6.5.21～7.30(第1回) R6.8.16～10.30(第2回)	50名(第1回) 50名(第2回)	【講義・実習】 ・認知症介護技術の向上を図り、認知症介護の専門員を養成
	堺市認知症介護実践リーダー研修	R6.11.19～R7.2.25	30名	【講義・実習】 ・実践リーダーとしてマネージャートレーナーとしての知識、技量の向上を目指す
	堺市認知症対応型サービス 事業開設者・管理者研修	R7.2.12, 2.18	9名(管理側) 0名(開設側) ※同時開催	【講義・実習】 ・堺市認知症対応型サービス事業開設者・管理者の養成
	堺市小規模多機能型サービス 等計画作成担当者研修	R7.1.14, 1.23	14名	【講義・実習】 ・堺市等小規模多機能型サービス計画作成担当者の養成
	堺市認知症介護実践 リーダーフォローアップ研修	R6.10.15	6名	【講義・実習】 ・リーダー研修修了者のスキルアップを図るため、最新知識の取得や実践報告を行う
	医療従事者向け・看護職員向け 認知症対応力向上研修	R6.11.13, 12.11, R7.1.29	8名(医療従事者) 9名(看護職員) ※同時開催	【講義・実習】 ・認知症に関する基本的知識や実践的な対応力を習得し、医療機関内等での認知症ケアの適切なマネジメント体制を構築する。
	関係職員以外の関係者等 認知症対応力向上研修	R6.9.30	60名	【講義・実習】 ・認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や認知症ケアの原則、医療と介護の連携の重要性等の知識について、習得する。

